

平成29年度 少年消防クラブ交流会(全国大会)の記録



2017年8月2日(水)~2017年8月4日(金)



主催 消防庁

共催

徳島県 徳島市 美馬市 北島町
公益財団法人 日本消防協会
一般財団法人 日本防火・防災協会
公益財団法人 徳島県消防協会

平成29年度 少年消防クラブ交流会(全国大会)の記録

■ 平成29年12月発行

■ 編集・発行: 消防庁国民保護・防災部防災課地域防災室
〒100-8927 東京都千代田区霞が関2-1-2
TEL (03)5253-7561 / FAX (03)5253-7576

平成29年度 少年消防クラブ交流会(全国大会)の記録

まえがき

1 交流会の概要	5
2 スケジュール	10
3 合同訓練概要図	12
4 参加クラブび記録 (全 50 クラブ)	
●西町少年消防クラブ (北海道札幌市)	14
●伏古本町ひまわり少年消防クラブ (北海道札幌市)	16
●太陽わらべ太鼓少年消防クラブ (北海道北見市)	18
●洋野町少年消防クラブ (岩手県九戸郡洋野町)	20
●三郷市少年消防クラブ (埼玉県三郷市)	22
●吉川松伏少年消防クラブ (埼玉県吉川市)	24
●浦安市少年消防団 (千葉県浦安市)	26
●日本橋消防少年団 (東京都中央区)	28
●芝消防少年団 (東京都港区)	30
●日本堤消防少年団 (東京都台東区)	32
●大井消防少年団 (東京都品川区)	34
●蒲田消防少年団 (東京都大田区)	36
●本田消防少年団 (東京都葛飾区)	38
●葛西消防少年団 (東京都江戸川区)	40
●立川消防少年団 (東京都立川市)	42
●昭島消防少年団 (東京都昭島市)	44
●町田消防少年団 (東京都町田市)	46
●日野消防少年団 (東京都日野市)	48
●秋川消防少年団 (東京都あきる野市)	50
●Risk Watch Yokohama Fire Team (神奈川県横浜市)	52
●大和市少年消防団 (神奈川県大和市)	54
●蘇原第二小学校少年防火クラブ (岐阜県各務原市)	56
●豊田市立四郷小学校少年消防クラブ (愛知県豊田市)	58
●豊田市立竜神中学校少年消防クラブ (愛知県豊田市)	60
●尾張旭市少年少女消防団 (愛知県尾張旭市)	62
●城陽少年消防クラブ (京都府城陽市)	64

●河南町ファイアジュニア (大阪府南河内郡河南町)	66
●東川崎防災ジュニアチーム (兵庫県神戸市)	68
●ひよどり台防災ジュニアチーム (兵庫県神戸市)	70
●尼崎市立小園中学校少年消防クラブ (兵庫県尼崎市)	72
●たつの・太子少年消防クラブ (兵庫県揖保郡太子町)	74
●青崎地区少年消防クラブ (広島県広島市)	76
●比治山学区少年少女消防クラブ (広島県広島市)	78
●六区少年少女消防クラブ (広島県三次市)	80
●府中町少年少女消防クラブ (広島県安芸郡府中町)	82
●厚南地区少年消防クラブ (山口県宇布市)	84
●加茂名小学校少年消防クラブ (徳島県徳島市)	86
●うずしお少年少女消防クラブ (徳島県鳴門市)	88
●穴吹少年少女消防クラブ (徳島県美馬市)	90
●板野東部少年少女消防クラブ (徳島県板野郡北島町)	92
●瀬居幼少年消防クラブ (香川県坂出市)	94
●久万中学校少年消防クラブ (愛媛県上浮穴郡久万高原町)	96
●美川中学校少年消防クラブ (愛媛県上浮穴郡久万高原町)	98
●南国市少年消防クラブ (高知県南国市)	100
●赤岡町少年防災クラブ (高知県香南市)	102
●栲原学園少年消防クラブ (高知県高岡郡栲原町)	104
●くすばし少年消防クラブ (福岡県北九州市)	106
●唐津市鏡少年消防クラブ (佐賀県唐津市)	108
●ひかり児童館少年消防クラブ (熊本県八代市)	110
●西瀬少年消防クラブ (熊本県人吉市)	112
5 写真集	115
オリエンテーション、クラブ活動紹介、阿波踊り観賞	116
合同訓練	118
避難所体験	120
地元消防団、少年消防クラブからの報告会	122
ご協力いただいた関係者の皆様	124
クラブ員代表挨拶	126



まえがき

少年消防クラブは、防火・防災思想の普及を図ることを目的として、小学生から高校生までの少女で結成されており、平成28年5月1日現在、全国に約4千5百のクラブ、約41万人のクラブ員が活動しています。

少年消防クラブ員は防火や防災についての知識を身近な生活の中に見出すとともに、日ごろから防火・防災に関する様々な訓練の実施、講習会等への参加、火災予防ポスターの作成、防火パトロールや防火・防災に関する研究発表会の実施などを通じて、地域における防火・防災思想の普及に努めています。

地震や風水害など多くの自然災害が発生する我が国において、少年消防クラブ員には、家庭や学校あるいは地域で、防火・防災の輪を広げていくリーダーとしての活躍が期待されており、このことを踏まえ消防庁では、少年消防クラブ員が消防の実践的な活動を取り入れた合同訓練や避難所体験等を通じて、他地域の少年消防クラブ員と親交を深めるとともに、消防団等から被災経験、災害への備えなどについて学ぶ「少年消防クラブ交流会」を平成24年度から開催しています。平成24年度は岩手県で東日本ブロック大会を、平成25年度は徳島県で西日本ブロック大会を、平成27年度は徳島県、平成28年度には宮城県で全国大会を開催してきましたが、今年度は徳島県で全国大会を実施しました（※平成26年度は台風の影響により中止）。

今年の交流会には、全国の少年消防クラブから50クラブ（クラブ員266名、指導員88名、合計354名）が参加されました。「ヨーロッパ青少年消防オリンピック」の競技種目を参考とした合同訓練をはじめ、参加クラブによる活動紹介や体育施設での避難所体験など、他のクラブの活動内容を学び、他のクラブ員と親交を深める機会にもなりました。最終日の報告会では、徳島県内の阿南市立津乃峰小学校、徳島市津田中学校の皆さんに、防災活動の取り組みについて発表をしていただき、また徳島県下27消防団の方々には消防団活動についてグループトーク形式で指導いただき、クラブ員は真剣に耳を傾け、消防団についての理解を深めていきました。交流会で経験したことがクラブ員のさらなる意識高揚につながり、今後の少年消防クラブ活動において大いに活躍され、地域防災の担い手として成長されることを期待しています。

この記録誌は、交流会に参加したクラブ員の感想等をまとめたものです。交流会を通して感じたこと、今後の抱負など、クラブ員の熱い気持ちが綴られています。ぜひ、ご一読いただき、少年消防クラブ活動の参考としていただければ幸いです。

交流会における各活動行事については、開催地である徳島県をはじめ、県内の消防本部、消防団、婦人防火クラブ、そして各施設の職員の方々、参加クラブ（クラブ員・指導者、事務担当消防本部等）の皆さまのご支援・ご協力により、すべての行程を無事に終えることができました。

結びに、交流会の開催にあたりご尽力いただきました徳島県、一般財団法人日本防火・防災協会、公益財団法人日本消防協会、公益財団法人徳島県消防協会の関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

消防庁国民保護・防災部防災課地域防災室

平成29年度 少年消防クラブ交流会(全国大会)の概要



平成29年度少年消防クラブ交流会(全国大会)の概要

- 1 日程 平成29年8月2日(水)～8月4日(金)
- 2 主催 消防庁
- 3 共催 徳島県(徳島市、美馬市、北島町) 一般財団法人 日本防火・防災協会
公益財団法人 日本消防協会 公益財団法人 徳島県消防協会
- 4 参加クラブ 全国の少年消防クラブから50クラブ
(クラブ員266名、指導員88名、合計354名)
- 5 活動行事の内容

8月2日 1日目

オリエンテーション 参加クラブ活動紹介

徳島県副知事にもご出席いただき、参加各クラブによる活動紹介を行いました。普段あまり知る機会がない他のクラブの活動について、参加者は真剣に耳を傾けていました。また、夕食後には地元徳島県の阿波踊り連「娯茶平」の方々に、阿波踊りの実演と踊り方についてご指導をいただき、参加者全員で阿波踊りを体験しました。



クラブ活動紹介



夕食



阿波踊り

8月3日 2日目

合同訓練

徳島県消防学校のグラウンドをお借りして、ヨーロッパ青少年消防オリンピックの競技種目を参考に、ホースの搬送やロープの結索等を取り入れた競技式の訓練をクラブ対抗により行いました。参加クラブの中には、地元の消防署や消防団の方から指導を受けて練習に動んできたクラブもあり、これまでの練習の成果を発揮するよう一生懸命取り組んでいました。訓練の様子は、徳島県知事をはじめ、(公財)徳島県消防協会長、徳島県婦人防火クラブ連合会長等、多くのご来賓の方々に観閲いただきました。



開会式



クラブ対抗リレー



クラブ対抗障害物競走

入賞クラブ紹介



第1位 三郷市少年消防クラブ(埼玉県)



第2位 豊田市立竜神中学校少年消防クラブ(愛知県)



第3位 町田消防少年団(東京都)



第4位 吉川松伏少年消防クラブ(埼玉県)



第5位 立川消防少年団(東京都)

8月3日 2日目

夕食(炊き出し)

夕食は、美馬市婦人防火クラブ連合会、美馬市消防本部、美馬市消防団の方に協力いただき、災害時を想定したアルファー米によるカレーライスを美味しくいただきました。



段ボール工作と避難所での口腔ケア

徳島県防災人災育成センターの方から段ボールの特性や工作について、株式会社サンスターの方からは避難所における口腔ケアについて、それぞれ教えていただきました。



ダンボール工作



口腔ケア

避難所体験

美馬市にある体育施設において、避難所体験として段ボールハウス作りを行いました。他のクラブ員と混合となるグループに分かれ協力し合い、段ボールを使用して区画を作り上げ、床の上にマットを敷いた寝床で就寝しました。慣れない環境での生活でしたが、クラブ員にとって貴重な経験となりました。



8月4日 3日目

消防団等との交流会

徳島県内の阿南市立津乃峰小学校、徳島市津田中学校の皆さんに、日ごろの防災活動の取り組みについて発表をしていただきました。

また、徳島県下27消防団の方々には消防団活動についてグループトーク形式でお話していただき、消防団についての理解を深めることができました。



解散式(代表挨拶)



平成28年度 少年消防クラブ交流会(全国大会)スケジュール

8/2
(水)

時間	内容
15:00 ~ 16:30	受付 (各ホテル)
17:00 ~ 17:30	オリエンテーション
17:30 ~ 20:00	クラブ紹介、夕食、地元芸能鑑賞
20:00 ~ 22:00	解散、入浴
22:00 ~	就寝

会場

- ・受付：徳島グランヴィリオホテル(徳島市万代町 3-5-1)
サンシャインホテル徳島(徳島市南出来島町 2-9)
- ・オリエンテーション、クラブ活動紹介等：徳島グランヴィリオホテル
- ・宿泊：徳島グランヴィリオホテル、サンシャインホテル徳島

8/3
(木)

時間	内容
~ 06:00	起床
06:30 ~ 07:00	朝食、荷造り
07:30 ~ 08:30	宿泊施設発 ⇒ 徳島県消防学校着
08:30 ~ 09:00	リハーサル
09:00 ~ 09:30	開会式
09:30 ~ 12:00	合同訓練(午前の部)
12:00 ~ 13:00	昼食
13:00 ~ 14:15	合同訓練(午後の部)
14:15 ~ 15:00	閉会式、荷造り
15:00 ~ 17:00	消防学校発⇒各入浴施設⇒うだつアリーナ
17:15 ~ 18:30	夕食(炊き出し)、片付け ※2班に分けて食事
17:15 ~ 21:00	避難所体験(段ボール等使用)
21:00 ~ 22:30	事務連絡、就寝準備
22:30 ~	就寝

会場

- ・朝食：徳島グランヴィリオホテル、サンシャインホテル徳島
- ・合同訓練：徳島県消防学校(板野郡北島町鯛浜字大西 165)
- ・夕食、避難所体験、宿泊：美馬市うだつアリーナ(美馬市脇町新町 196)

8/4
(金)

時間	内容
~ 06:30	起床
07:00 ~ 09:00	朝食、片付け、荷造り
09:00 ~ 11:00	消防団、少年消防クラブ等からの報告会、解散式
11:00 ~ 13:30	うだつアリーナ発 ⇒ 徳島駅・徳島阿波おどり空港等 着、解散

会場

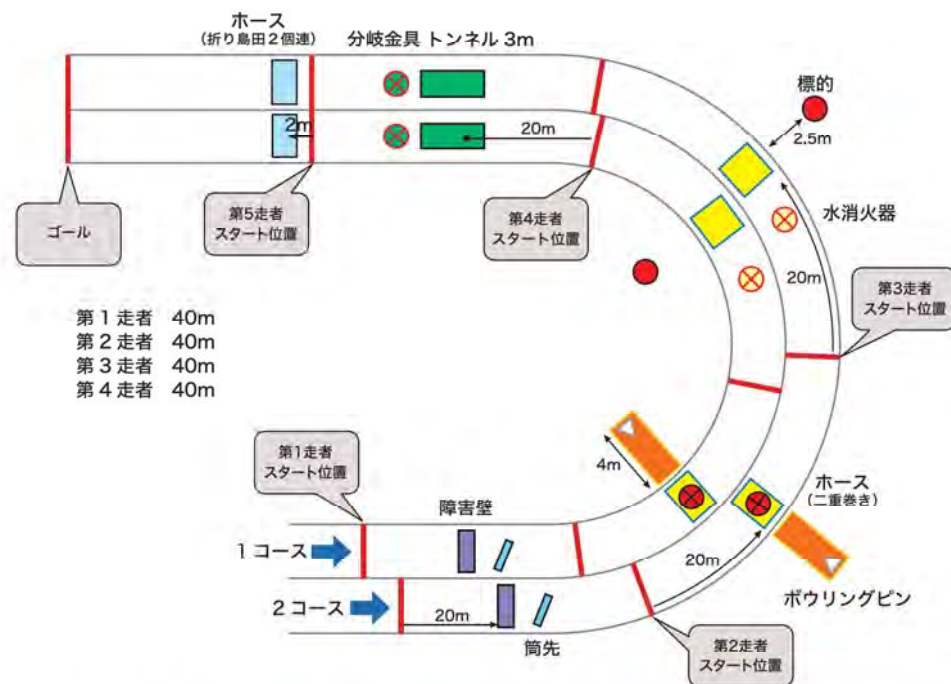
- ・朝食、報告会：美馬市うだつアリーナ

合同訓練概要図

クラブ対抗リレー コースレイアウト (2コース)

概要

- ・1クラブ5名で行うものとする。
- ・全走者40mとする。(全長200m)
- ・筒先をバトン代わりに使用する。



第1走者 40m
第2走者 40m
第3走者 40m
第4走者 40m

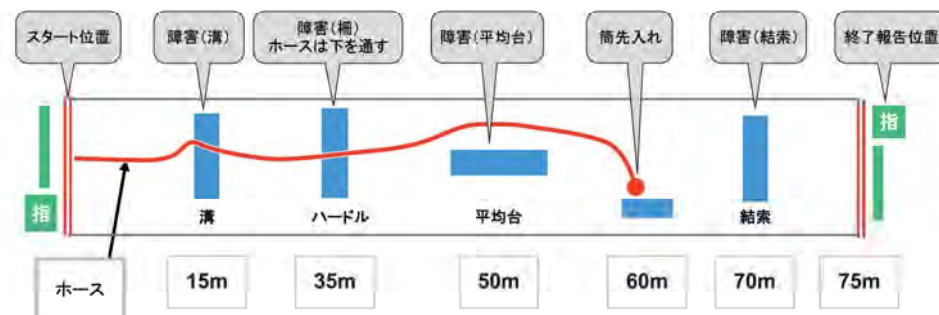
	第1走者	第2走者	第3走者	第4走者	第5走者 (アンカー)
障害	障害壁	ホースポウリング	水消火器	トンネル	ホース延長
共通事項	審判員の合図(号砲又は笛)でスタートし筒先(バトン)をリレーしながら、アンカー(第5走者)がゴールラインを通過して筒先(バトン)を地面に置くまでのタイムを競う。 なお、競技ルールから逸脱した動作や行動があった場合は減点とし、タイムに加算する。				
内容	審判の合図によりスタートし、障害壁(高さ1.5m)を乗り越え、筒先(バトン)を取って第2走者へ渡す。	指定の枠の中まで移動し、ホース屋敷によりポウリングピンを回す。	水消火器を搬送し指定の枠の中に置き、水消火器を斜射し標的を2つ倒す。	トンネルをくぐり、分岐金具を搬送し、第5走者へ筒先(バトン)と分岐金具を渡す。	2mの位置にある、40mmホース2本と筒先と分岐金具を結合しホースを延長する。ゴールラインを通過したら筒先(バトン)を置く。

合同訓練概要図

クラブ対抗障害物競争

概要

- ・1クラブ5名で行うものとする。
- ・指揮者1名を含む5名でコース上の障害を越えながらホースを展張・延長し、ゴールする。
- ・直線75mのコースを用いる。



	指揮者	1番員	2番員	3番員	4番員
スタート時携行資機材		筒先	40mmホース	40mmホース	40mmホース
共通事項	スタートの合図(号砲又は笛)でスタートし、障害を越えながら二重巻きホースを展張・延長し、結索を行った後、クラブ員全員がゴールラインを通過するまでのタイムを競う。 なお、競技ルールから逸脱した動作や行動があった場合は減点とし、タイムに加算する。				
競技内容	スタートの合図とともに、各障害を越え、結索を行った後、終了報告位置まで、各番員の行動を監視し、全員が整列し終わったら、右手をあげ合図する。	スタートの合図で筒先を携行し、各障害を越え、平均台の先にて2番員のホース延長を待つ。ホースに筒先を結合した後、筒先入れに収納する。収納後、結索へ向かい、結索終了後、終了報告位置に整列する。	スタートの合図で二重巻きホースを搬送しながら各障害を越え、橋を越えた位置で3番員のホース延長を待つ。ホースが結合された後、自分のホースを延長しながら平均台を越え、平均台を越えた位置で待っている1番員が進行している筒先に自分のホースを結合した後、結索へ向かい、結索終了後、終了報告位置に整列する。	スタートの合図で二重巻きホースを搬送しながら溝を越え、溝を越えた位置で4番員のホース延長を待つ。ホースが結合された後、自分のホースを延長しながら橋を越え(ホースは橋の下を通す)、橋を越えた位置で待っている2番員のホースに自分のホースを結合し、平均台を渡り、結索を行い、終了報告位置に整列する。	スタートの合図で二重巻きホースを延長しながら溝を越え、溝を越えた位置で待っている3番員のホースに延長してきたホースを結合し、各障害を越え、結索を行った後、終了報告位置に整列する。

※ホースとホース、またはホースと筒先の結合は、全走者、次走者のいづれが実施してもよい。また、双方が協力して結合してもよい。



● 学んで、交流して、悔しさも……。 ● 指導部長 屋木 妙子

都合で1名出席できませんでしたが、5名で初めての全国大会に臨みました。事前の練習や当日の競技でも戸惑うことも多くあり成績はふるわなく悔しさもありましたが、クラブ員は良い経験だったと思います。避難所体験では、男性陣は寝る事に力を入れ、女性陣は交流の為にリビング作りとそれぞれの特徴が出していました。一晩だけの体験なので笑い声も響いてましたが、実際の災害では長期間の滞在を余儀なくされることを考えると非常に大変だろうと実感しました。この大会の主催者と関係者の皆様にお礼申し上げます。



● 最初で最後の全国大会 ● 加藤 慧悟 (中3)

僕が所属する西町少年消防クラブは、今回初めて全国大会に出場しました。初めてということもあり、とても緊張しましたが貴重な体験となりました。まず競技では、ややその場の空気へのまれ、結果はあまりふるいませんでしたがいい経験になりました。避難所体験ではプライバシーの空間が人にもたらず重要性を身をもって感じました。今回の経験を生かしてこれからも頑張りたいと思います。



● 良い体験ばかりで得しま(徳島)した。 ● 浅利 航多 (中2)

北海道以外の気候に慣れず、暑いのにホテルでは温かいお茶ばかり飲んでいましたが、とても有意義な3日間だったと思います。クラブ対抗リレーでは、ボウリングのピンを1本も倒せなかったのが悔しかったです。消防団員の方からの活動報告では、苦労話や人探しをしているなど大変さや意外な事をたくさん聞いて良かったです。そして活動をしていくうちに同じ札幌のクラブの人や、岩手や埼玉の人などとクラブ活動や、「なまり」などについて話すことができて楽しかったです。



● 普段できないこと ● 股村 優大 (小6)

今回徳島県で開催された大会に出場し、ぼくがこの大会で一番心に残ったのはダンボールハウス作りです。最初は初対面の人ばかりだったので少し不安でしたが、話をしているうちに、だんだん同じクラブ員としての仲間になれてとても楽しかったです。来年も中学生クラブ員として参加したいです。こんなに貴重な体験をさせてもらった指導者の方々に感謝します。ありがとうございました。



● 学びを深めた全国大会! ● 加藤 光莉 (中2)

私たちのクラブは今回初めての全国大会であり、そのため練習の時から様々なハプニングがありました。そのたびに修正し乗り越えての参加となりました。こうしてたくさんの方々に応援していただきましたが、結果は思っていたよりも良くありませんでした。しかし、他のクラブとの交流や避難所体験などからクラブ員としての心構えを学びました。これからはこのようなことを踏まえ、私が住む町に合った防災を考え協力して行きたいです。



● 初めての全国大会 ● 飯田 桜空 (小6)

初めての全国大会でしたので少し緊張していましたが、本番になるとリラックスして競技に臨むことが出来ました。結果は33位でしたが皆で団結して出来たので良かったです。リレーではサポーターが緩かったので走りづらかったのが残念です。来年もこの全国大会に出て上位になれるように頑張りたいです。



貴重な経験をした3日間



伏古本町ひまわり少年消防クラブは、中学2年生5名、中学1年生2名、小学6年生2名、5年生2名、4年生1名の合計12名と少ない人数ですが、みんなが和気あいあい楽しく元気に活動しています。今回は、代表の男子4名と女子2名で交流会に参加しました。



避難所体験の感想

● 浅水 聡一郎 (中2)

今回の少年消防クラブ全国大会の避難所体験を通して災害時にとる行動、必要な物などになることをたくさん学ぶことができました。消防団の方々と交流をする時にも、普段聞けないような話を聞くことができ、とてもいい経験になったと思います。この三日間を通して学ぶことがたくさんあり、自分でも成長できたように思います。この知識をしっかり身につけておいて、何かあった時にも役立てるようにしておきたいです。



開会式前に緊張気味に整列



合同訓練と避難所体験

● 佐伯 幸星 (中1)

僕は、合同訓練で仲間との協力が大事だと思いました。リレーのバトンパスのように訓練でも筒先の渡し方などを工夫すると早くなるなと思いました。クラブ対抗リレーでは、バトンパスなどの協力が早くなる秘訣だと思いました。

避難所体験は、ダンボールで仕切りなどを作りました。その他、生活に必要な物をダンボールで考えて作る想像力が大事だと気がきました。



いよいよ交流会が始まります



全国交流会を振り返って

● 平川 舜稀 (小6)

僕は、今回初めて全国交流会に参加しました。合同訓練で僕は、障害物競走に出場し、全員で協力して無事にゴールできました。

その後、避難所体験で初めてダンボールハウスを作りました。自分では上手に作れたと思います。背中が少し痛くて寝づらいなと感じました。災害の時に何週間も生活していた人達は大変なんだと感じました。最終日は、徳島の消防団の方から災害のこわい話やためになる話を聞きました。どれも初めて聞く話で驚きました。

この交流会は、僕にとって貴重な経験で、これからの活動に活かしていきたいです。



これから非常食を食べて避難所宿泊体験



徳島県での合同訓練

● 佐伯 星哉 (小5)

合同訓練では、午前の部でクラブ対抗リレーに出ました。結果は負けてしまったけれど、自分にとっての全力を果たしてできたから良かったです。

午後の部では、カメラで写真を撮られたので良かったです。

避難所体験は、夕食後に具合が悪くなってダンボールハウス作りと宿泊体験ができなかったので残念でした。



暑さに負けず「頑張るゾー」



全国大会に行って

● 太島 希実 (小6)

大会初日は、50チームの前でクラブ紹介をし「明日頑張ろうね！」と声をかけて回りました。

二日目は、待ちにまった大会。午前のリレー、どのチームより心がつながっていたと思います。午後の障害物競走では、ハードル付近で衝突してタイムロスしましたが、ロープ結紮が一番良く出来ました。

私は、みんな今までで一番良い動きが出来たと思いました。競技会後は、ダンボール避難所体験です。私は、寝る人の気持ちを気にして作りました。私達は楽しみながら作ったけれど、実際には避難してきた人は怖いと思いながらやっていたんだなと思います。この日は、たくさん学びました。



本領発揮のロープ結紮

三日目は、地元の消防団に来てもらって、たくさん話を聞きました。私は、今回の大会で学んだことを活かしたいです。



初めての四国

● 浅水 美空 (小5)

私は今年初めてこの交流会に参加して楽しかったことは、段ボールハウスで寝たことです。理由はふだんできない体験だったし、他の県から集まった人と寝たので、新しい友達もたくさんできました。そして初めて段ボールで寝たので、少し寝られなかったけれど、とても楽しかったです。他にも、一日目の阿波踊りも楽しかったです。私はうまいと言われ、何百人の前でおどりました。来年も是非この交流会に参加したいです。



阿波踊りの感想を元気に受けとれました



再び挑戦

「心にゆとりが」 指導者 山内 克也

前回の参加は、一昨年の平成27年度少年消防クラブ交流会（全国大会）でした。同じ四国徳島市での開催で、猛暑の中での開催に北海道から行った私達には大変きつい大会の思い出がありました。

今回は前回と同じ会場とあって、事前に暑さ対策や大会手順、内容など前回の経験を踏まえて取り組む事ができました。子ども達には競技の目的を説明し、日頃の訓練で培ったチームワークを競技に活かすための指導が出来た様に思えます。

大会を終えた子ども達はどの子も大きな達成感をあじわいひと回りもふた回りも大きく成長した様です。

「初めての全国交流会」 指導者 山内 和枝

当クラブとしては2回目の参加となりますが私は初めての全国交流会でした。全国のクラブ員の方々の熱心な取り組みやクラブ対抗リレー、障害物競争、避難所体験、消防団の方々との交流会等どれも貴重な体験となりました。今回改めて防災教育の大切さを実感し、日頃の訓練が災害対応に役立つ事を学ぶと共に防災知識の向上を図り子ども達の良い指導者であらねばと感じました。地域や社会に貢献できるようこの経験を活かしたいと思っています。

「初めての全国交流会」 瀬田 真由 (小6)

今回の大会では思い出が増え、沢山の貴重な経験をさせていただきました。クラブ対抗リレーでは第2走者でした。消火器を倒してしまった時は頭の中が少しパニック状態でしたが、なんとか次へ繋げました。クラブ対抗障害物競争では気が付いたら終わっていた感じでした。

ダンボールハウス作りで、新しい友達ができました。協力して生活に必要な物を作る事によりいっそう仲を深める事ができました。そして何より、今回のメンバーで参加できた事が一番うれしかったです。このメンバーだからこそ楽しい思い出も沢山でき、ぎりぎりな時でも支え合っていたのだと思います。次の大会にも出場できたら、その時こそは1位をとりたいです。



「チームワークが大切」 藤井 椰子 (小6)

私は、少年消防クラブ交流会（全国大会）に参加して、一番心に残った事は合同訓練です。なぜなら、私達は、今回女子だけの小学生チームでしたが、中学生チームが沢山あることに驚きました。中学生チームはとても速いし、チームワークの良さには驚きましたが、私達もチームワークでは負けていませんでした。結果は19位でしたが、練習よりも良く出来たと思います。

避難所体験では、他のクラブとも交流が出来たので楽しかったです。



「チームワークが必要」 佐藤 永菜 (小6)

大会の日は、すごく暑い中での競技でした。総合結果は19位でしたが、自分では良い方だと思います。

クラブ対抗障害物競争では、練習の時よりタイムが遅かったのが残念でした。

ダンボールベッド作りの時は、知らないクラブの人と作った時、何でもみんなと協力してやる事が大切だと思いました。その中でも、大切な事は「チームワーク」だと思います。19位になれたのは、みんなでいっぱい練習したからだと思います。

この全国交流会で学んだ事を、これからも活かしていきたいです。

「とても貴重な体験」 伊藤 葵 (小6)

今回の交流大会では、やる事全てが初めての体験だったのですごく緊張しましたが、とても楽しかったです。

合同訓練のクラブ対抗リレーでは、ミスが続いてしまいすごく悔しかったのですが、クラブ対抗障害物競争では、クラブ対抗リレーの悔しさがバネとなり良いタイムができました。

他にもダンボールで造る避難所体験では、友達も沢山でき、またオリエンテーションなど楽しい企画が沢山ありました。

この経験をこれからも大切にしていきたいです。

「くやしいけど楽しかった」 佐野 遥奏 (小5)

私は、全国交流会で楽しかった事は交流会で知らない人と友達になれた事です。

そして、くやしかった事は、入賞ができなかったことです。結果は19位でしたが北海道で1位だったから良かったです。

また、来年も参加できるなら参加したいです。とても良い体験ができました。



学びの3日間



洋野町少年消防クラブは、男子41名、女子3名、合計44名で構成されています。消防団特別点検（軽可搬ポンプ操法・分列行進）火災予防運動、防火広報、防火ポスターコンクール及び、消防署主催の職場体験参加などの活動をしております。今回は6年生4人が交流会に参加しました。



不憫だった避難所生活

佐藤 富盛

八月二日から四日まで少年消防クラブ交流会が徳島県で行われ五人で参加してきました。

僕たちは、一日目交流会の競技クラブ対抗リレーに参加し、僕は二走目でした。一走者からバトンを受取り、ホース展覧、ボーリングのピンを一本しか倒すことが出来ませんでした。練習では上手く出来ていたけど本番では、上手く出来なくて、とても悔しかったです。

二日目の避難所体験では、段ボールハウスを作りました。僕はもっと簡単に作れると思っていたけど四人で三時間くらい掛りました。完成した段ボールハウスで寝てみると暑くなったり寒くなったりして、よく眠れませんでした。床は固く、長い期間生活することを考えると想像が出来ません。

今回一日だけでしたがとても貴重な体験でした。



消防全国大会で学んだこと

蔵谷 柊太

僕が消防全国大会で学んだことは二つあります。一つ目は合同訓練です。僕は最初になぜこんな訓練があるのか分かりませんでした。だけど全国の人が訓練を通し火災、災害が起きた時どのように動いたらいいのかを学んで動くことにより安全に過ごせるようになって感じました。

二つ目は避難所体験です。避難所での夕食は炊出しで避難中だと食材が調達できない時もあるから食べられない時もあります。段ボールハウスは二日開くくらいなら良いけど、何日も泊まるかわからない避難所は凄く辛いと思う人もいます。他に災害などで電気が使えないとライトだけで視界が悪く怪我もします。だから、家に防災用具を入れて避難所でも快適に過ごせるようにしていきたいです。



交流会での思い出

北山 理人

僕の交流会での思い出は二つあります。

一つ目は合同訓練での思い出です。合同訓練ではクラブ対抗リレーとクラブ対抗障害物競走をやりました。

クラブ対抗リレーでは、第一走者は速く、良いスタート切れましたが次に繋がらず良い結果が出せませんでした。

二つ目は避難所体験での思い出です。段ボール工作では楽しくさせる為に段ボールに穴を開けましたが、実際は風

が通るたびに寒く非常口の光も入り眠り辛かったです。でも、段ボール工作を通して西町少年消防クラブの人と交流できて楽しくかったです。非常食体験では、お湯でご飯を作りカレーライスにして食べました。他にも色んな非常食があるのでもっと調べてみたいです。

今回の交流会で色々な体験が出来て良かったです。



交流会を通して学んだこと

逸見 大暉

僕が交流会に行って学んだことは、他の消防クラブの強さと避難所の辛さです。

まず、他のクラブの強さについてです。僕は二つの競技がある内の一つ目のリレーのみ出場しましたが、優勝したクラブは二つの競技に出場し、その合計の記録に僕達の記録が負けていたからです。きっと沢山練習をして努力したんだなと思いました。

交流会の後に温泉に行きましたが、とても混雑していて避難所でもこのような感じなのかと思いました。避難所では段ボールハウスを作って寝泊りし、起きた時に少し頭が痛かったので数日間も過ごすと、とても大変だと避難所での辛さを体験しました。

今回の交流会で学んだことをこれからも活かして人の役に立てるように頑張りたいと思いました。この交流会の全国大会に出られたことは一生の宝物です。



全国少年消防クラブ交流会

谷地中 風介

一番嬉しかった事は合同訓練の間に各都道府県の子達と友達になれたことです。僕は安田君という人と友達になりました。とても面白く、すぐに打ち解けました。

また、一番辛かったことは僕が体調を崩して消防クラブのみんなと一緒に活動ができなくなった事です。とても楽しみにしていた避難所体験が出来なくて残念でした。

ためになった事は、僕の具合が悪くなった時に救護の方や消防職員の方々が処置をしてくれました。消防職員の人達は救急要請があった時には、このように処置して病院へ連れて行くんだらうと思いました。救助すること等で人を助けたりするのが凄いなと思いました。



全国の仲間との交流 ～支え合う力、そして感謝～



平成 23 年 4 月に設立した三郷市少年消防クラブは現在、小学 5 年生から高校 3 年生までの男女 114 名で活動しています。高校生になった 26 名のクラブ員は普通救命普及員の資格を取るなど活動の幅を広げ、準指導員として後輩クラブ員の指導に当たっています。また、全国交流会や青少年消防オリンピックへの派遣により、クラブ員の消防・防災に対する意識も高くなり、リーダーとしての自覚も芽生えてきました。

王者返り咲き!! みんなで掴んだ優勝

前回大会で準優勝と悔しい思いをした先輩クラブ員の屈辱を晴らすべく、王者奪還を目指し、日々訓練に励みました。運動能力よりも勝つことへの執着心と個々の欠点を補い合うチームワークの良さが優勝へと繋がったのだと思います。競技中に予期せぬハプニングもありましたが、声を掛け合いながら諦めずに最後まで走り抜けた姿は、見る者の心を動かししました。「優勝に届かないかと思ったけど、閉会式の結果発表で、1 位で名前が呼ばれたときは本当に嬉しかったです。」神谷菜那 (中 1) 「このチームで優勝できて本当に嬉しかったです。来年も優勝してほしいです。」上岡桜子 (中 3) 「優勝できてとても嬉しかったです。暑い中、チームのみんなや先輩クラブ員と練習してきた甲斐がありました。」高島幸太 (中 1)



クラブ紹介・阿波踊り観賞

参加クラブ 50 チームのクラブ紹介と夕食を兼ねた他のクラブ員との交流、阿波踊り観賞など、1 日目から充実した時間を過ごすことができました。「たくさん友達を増やせて良かったです。」梅田涼平 (中 1) 「全国のクラブ員と自己紹介をし合っておもしろかったです。」神谷菜那 (中 1) 「クラブ紹介でどのクラブが強そうかなと考えながら聞いていました。阿波踊りを踊ってみたけど、すごく難しかったです。」大野蒔絵 (中 1)



避難所体験・地元消防団との交流・クラブ活動報告

「芝消防少年団と交流ができ、みんなでアイデアを出し合って、いいダンボールハウスを作ることができました。」梅田涼平 (中 1) 「他のチームと協力して作れて、とても楽しかったです。」高島幸太 (中 1) 「消防団との交流で、消防団と消防士の違いを教えてくださいました。」勝間正人 (中 2) 「クラブ活動報告では、自分たちに行けることがたくさんあることを学びました。」大野蒔絵 (中 1)



交流会を終えて

選手 6 名とも初めての参加で、中には飛行機に乗れることに気持ちが高ぶる選手もいましたが、歴代の先輩クラブ員が合同訓練で好成績を残している分、みんなプレッシャーも感じていました。その中での優勝は、選手たちにとっても、三郷市少年消防クラブにとっても大きな財産になったと思います。また、全国のクラブ員と交流をすることができ、終始楽しんでいる様子でした。選手一人ひとり、忘れられない夏になったと思います。この 3 日間を通し、たくさんの方が携わってくれたことに感謝し、今後も積極的に消防・防災活動に参加し、地域防災の担い手としてさらに大きく成長していくことを期待します。「このチームのリーダーをやらせてもらえて良かったです。」上岡桜子 (中 3) 「去年の分も頑張りました。最終日の海鮮丼おいしかったです。」勝間正人 (中 2) 「このメンバーで交流会に参加できて、優勝もできて良かったです。たくさんさんのクラブ員とも仲良くなれて、充実した 3 日間になりました。」大野蒔絵 (中 1) 「帰りはプレッシャーがなくなり、ゆったりとできまし

た。3 日間とても楽しかったし、貴重な経験になりました。」神谷菜那 (中 1) 「到着したときに、応援してくれたお母さんたちに優勝を報告できました。」梅田涼平 (中 1) 「8 人で無事に三郷市に帰ってこられて良かったです。」高島幸太 (中 1)



～ 目標達成!! 流した汗は嘘をつかない!! ～



4位入賞!! 目標達成!



吉川松伏少年消防クラブは、平成24年4月に設立され、現在は小学校5、6年生のクラブ員32名と中学生以上の準指導者16名の合計48名が在籍しています。クラブ活動を通じて家庭及び地域の防災意識の高揚を図り、将来の地域防災の担い手となる人材を育成しています。今回は選抜の結果、中学1年生1人、中学2年生4人、中学3年生1人の計6人が交流会に参加しました。



伊澤 貴史 (中3)

昨年の交流会は13位という結果で、今年こそは「5位以内入賞」をチーム目標として、事前練習にもチカラが入りました。本番では、事前練習のタイムまでは出せませんでしたが、4位入賞することができて良かったです。避難所体験では改めて避難生活の厳しさを知ることができました。交流会では様々な都道府県のクラブとふれ合うことができて良かったです。今年の夏の思い出になりました。



清野 蒼磨 (中2)

昨年に続き、今年も参加させていただきました。昨年は13位で今年は4位という成績で嬉しかったけど、優勝を目指していたので悔しかったです。しかし、交流会を通して昨年とは違うクラブと交流ができた、徳島の文化にもふれることができ、とても良い経験になりました。



町田市少年消防団とハイチーズ



金田 彪斗 (中2)

今回の交流会では、はじめての参加だったので少し緊張しましたが、事前練習の成果を発揮できたと思いました。大会の結果は4位でしたが、もう少し早くできたかなと思いました。しかし、4位という結果を初めての参加で出せたので良かったと思います。来年また参加することができたら、次こそは優勝したいと思います。



浦安市少年消防団と協力して避難所作成中!



門倉 憲永 (中2)

僕は障害物競走のみの参加でしたが、リレーで仲間が頑張ってくれたおかげで緊張もせず、競技に挑むことができました。結果は4位入賞できたけど、3位とは2秒差だったのでとても悔しかったです。来年は3位以内に入ることを目指して練習を頑張りたいと思います。今年も他のクラブと交流ができ、楽しかったです。誰もが経験できることではない交流会に参加できて良かったです。



交流会事業ではないですが、徳島県防災航空隊を見学!



合同訓練直前の様子、気持ちが高ぶります!



笹島 滯 (中2)

毎年優勝や2位の結果を出している三郷少年消防クラブは失敗しても、優勝できたのですごいと思います。決してあきらめない気持ちを見習いたいと思いました。避難所体験は初めての体験ではなかったですが、他のクラブと協力して避難所を作れたので良かったと思います。知らなかったダンボールの使い方も分かって良かったです。



地元消防団の方から貴重なお話をいただきました。



工藤 晶 (中1)

とても暑い中での合同訓練でしたが、事前練習どおりスムーズにクリアできたので、チームに貢献できたと思います。避難所体験は浦安市少年消防団と協力して個性的なダンボールハウスを作ることができました。また来年も今年より上の順位を目指して頑張りたいと思います。

夏の思い出！～徳島での経験、出会えた全ての人に感謝～



浦安市少年消防団は、平成24年に発足しました。現在、市内全ての小学校から集まった小学校5年生・6年生が84名在籍しています。月に1～2回、消防団員の中から選ばれた専属の指導員を中心に、規律訓練・放水訓練・救命講習・救助訓練・宿泊研修・出初式などの活動を行っています。交流会には6年生を対象に選考会を実施し、浦安市の代表として5名が参加しました。

チームメイトとの絆が深まった交流会 リーダー 田中 滉大 (小6)

8月2日から4日で素晴らしい経験ができました。特に、合同訓練では0.1秒差で6位だったのが悔しかったけど、自分たちの訓練成果を精一杯発揮できて良かったです。

交流会では、全国から来た、沢山の人の人たちと交流ができて良かったです。なによりも、同じチームの人たちと仲良くなれたのがすごく嬉しかったです。素晴らしい経験ができました、ありがとうございました。



交流会で学んだこと 大島 蓮央 (小6)

交流会を通じて学んだことがあります。大会当日、午前中のクラブ対抗リレーでは、初めての出場で、周りのチームに圧倒され、緊張して上手くできませんでした。ですが、午後のクラブ対抗障害物競走では、緊張に慣れてきて競技に集中でき、とても上手くやりきる事が出来ました。

この大会で僕は、隣のコースを気にせず、自分の競技に集中することで本来の実力を発揮することが出来たと学びました。

結果は6位でしたがこの経験を活かし、役立てたいと思います。



チームワークの大切さ 飯田 空来 (小6)

6月から交流会の訓練をしてきました。炎天下の中、訓練は大変だったけど皆で頑張りました。

本番では皆、全力を出し切りましたが、0.1秒差で入賞を逃してしまいました。とても悔しい思いをしましたが、チームワークの大切さを改めて知ることが出来ました。

この貴重な体験を忘れず、これからの日常に活かしていければいいと思います。



少年消防クラブ交流会に参加して 近藤 もも (小6)

大会が終わり、入賞できなくて悔しいと思いました。今まで一生懸命練習してきたのに0.1秒で入賞を逃して、0.1秒は短いけどその差は大きいと感じました。でも、今は楽しい思い出も多くよみがえります。

大会に出るまで多くの方にお世話になりました。仲間と協力し合うことの楽しさ、みんなで1つの目標に向かって頑張ってきた連帯感、段ボールハウス生活など初めての体験ばかりでした。

この体験や悔しい気持ちをバネに新しいことに挑戦していきます。



交流会を終え 高野 未羽 (小6)

すごく良かったと思いました。何で良かったかと言うと、消火器の的を1発で倒せたからです。レース直前までは「あー、バトンを渡すのをミスしたらどうしよう。」とか「1発で倒せるかなあ。」などのマイナスなことばかり考えていたので、的が1発で倒せた時は心の中で「良かったー。」と安心しました。

結果は6位で5位までには入れなかったけど、とても良かったです。この経験を普段の経験に活かしたいと思いました。



経験して実感！訓練の大切さ



日本橋消防少年団は、小学校1年生から高校3年生まで133名の団員で活動しています。

消火や救助、救急の訓練の他に、全国につながる江戸時代からの道「五街道」の起点となっている「日本橋」を洗う奉仕活動に参加するなど、地域の活動にも数多く参加し、防火・防災の広報をおこなっています。

今回は、中学1年生の団員のうち5人が代表として参加しました。



交流会に参加して

荒田 幸大

5年前の交流会に参加した兄から貴重な経験ができる聞き、全国から集まる精鋭と交流するなんて自分ができるのかたいへん緊張しながら、団の仲間と飛行機に乗りました。

徳島では、有名な阿波おどりを見せていただきました。競技は、上位に行く気で参加しましたが、全国大会はレベルがちがいました。交流会に参加して、日本橋消防少年団として結束が固くなったと思います。これからの活動に活かしたいです。



CHUO



全国交流会で学んだこと

岩下 優

僕は徳島の交流会で2つのことを学びました。

まず1つ目は他の消防少年団との違いです。僕たちも訓練はしているけど他の消防少年団は交流会のリレーのコースと似たようなものを作って練習していたりしていたのですごいなと思いました。また僕たちはあまりリレーの練習はしていなかったから他の消防少年団とかなりタイムが遅れてしまったので今度は練習してタイムを縮められるようにしたいです。

2つ目は段ボールハウスでの生活のつらさです。夜寝てみると寝心地が悪いし冷えるので寝づらかったです。僕は徳島でこの2つのことを学びました。このことをいかにしてこれからも消防少年団を続けていきたいです。



全国交流会に初めて参加して

小森 以愛

他チームが競技中の姿を見ると、レベルが高く、私達のチームも頑張らないといけないと思いました。実際に、自分達のチームの順番となった時は、無我夢中で競技を行いました。結果は上位ではなく、日頃の訓練の大切さを痛感しました。

私は、今回の交流会の経験を通して、消防少年団の活動は、周囲の方々との協力連携が大切であると思いました。今回のような貴重な交流会を用意してくださいました関係者の皆様に感謝しています。大変ありがとうございました。



全国交流会に行って

窪田 光希

3日間、訓練した事でより技能面が上がったことや、色々な消防少年団の人と仲良くなれて、充実した3日間でした。

2日目の夜から3日目にかけての避難所体験では、協力して段ボールハウスを作りました。楽しかったですが、本当の災害の時はこんなに楽しくはないだろうな、と考えました。また、3日目の消防の方のお話を聞く時には、実際にあったことや、備えていることなど色々とお話を聞くことが出来、とてもためになりました。



段ボールの温もりとつらい思い

助野 夏海

全国交流会では、あまり一緒に練習をする時間が無かったのですが、楽しく出来たと思います。

その後に行われたダンボールハウス体験では、ダンボールは、使い方をさえすれば結構丈夫なことがわかりました。実際にダンボールの上で寝てみると、暖かかったけれども固くて身体が少し痛くなった気がしました。

被災者の人は、こんな思いを持ちながら何日間も過ごさなければいけないので大変だと思いました。しかし、同じ様な思いを抱えている人が何人いるので話をすると気持ちも少し楽になると感じました。

全国交流会に、参加出来てよかったです。



僕たちの夏！ ～訓練 挑戦 友情～



芝消防少年団員は、昭和54年に発団以来、火災予防広報や社会奉仕活動を通じ、責任感のある人になれるよう活動を行っています。現在小学1年生から高校3年生までの81名が入団しており、今回は小学6年生3名、中学1年生2名の計5名が参加しました。3日間の貴重な体験は、今後の活動に必ず活かしていきたいと思えます！



はじめての、、、
豊島 蓮 (小6)

僕にとって、はじめての少年消防クラブ交流会で、はじめての徳島県でもありました。飛行機に乗った時から「徳島はどこなところだろう?」「大会には何人くらい参加するのだろう?」と考えていました。実際に行ってみると想像以上に人がいて、阿波踊りが徳島県から生まれたことも知りました。

合同訓練当日は、すごく暑かったけれど自分の担当する部分はしっかりと出来たので良かったです。

また、段ボールハウスを作ってそこで寝る、昼や朝は非常食を食べるなど実際の避難生活も体験出来たとても勉強になりました。他の地域の少年団員とも交流が出来たのも楽しかったです。これからこの経験を活かしていきたいです。



少年消防クラブ交流会に参加して
飯塚 翔太 (小6)

僕が一番心に残っているのは、避難所体験です。僕のグループは、他の班よりも多く段ボールをゲット出来たので個室にしたのですが、僕の班とはちがう班の人が「ここをあけて話せるようにしましょう。」とってくれたので、仲良くなる事が出来ました。このようにところが、全国大会の良いところなんだな、と思いました。

このような機会を与えてくださってありがとうございました。

また参加したいです。



交流会を通じて
小池 悠太 (中1)

徳島での交流会は2回目でした。五年生の時とは違い今回は中一として様々なことを経験しました。例えば下級生の面倒を見たり、ダンボール体験では、実際に避難しているのを想定して便利だと思うものを作成したりしました。もし本当に避難するようなことがあればこの体験で得たダンボールの使い方はすごく大事だと思います。また合同訓練は、事前に練習をしたり、5人で力を合わせて参加することが出来ました。



交流会に参加して
関野 魁人 (小6)

今回の交流会で一番身に染みしたのは、ダンボールハウスです。それを作るため「ダンボールのムダ使いをしない」という小さな目標を立てました。理由は、災害時はダンボールが数多くあるわけではない、と思ったからです。目標通り、ムダに使うことなく出来ました。中に入ってみると思った以上に暑く、体は疲れているはずなのに、なかなか眠れませんでした。改めて災害時の大変さを感じました。この経験を災害時に役に立てたいです。



二回目の徳島
古家 丈太郎 (中1)

今回僕にとって二度目となった全国交流大会は、「前回のリベンジ」を目的に参加した。チャレンジする競技も前回と同じだったので、さらにいい記録が残せるよう、練習を積み重ねました。結局あまりいい記録にはなりませんでしたが、ダンボールハウス体験や阿波おどり体験は、前回の経験を生かしてより楽しむことができました。これからも、活動に積極的に参加し、さらなる技術の向上を目指していきたいです。



たくさんの学び、思い出、友達を得た交流会



日本で有数の観光地である「浅草」が管内の日本堤消防少年団は、地域の防災力向上を目指して、基本訓練や社会奉仕活動に励み、地域住民だけでなく、観光客や外国人の皆さんに防火防災の心が伝わるようにと元気に呼びかけています。
今回は双子の中学1年生、小学6年生1名、小学5年生2名の小柄な身体でも、元気のよさでは誰にも負けぬ5人が代表として、頑張ってきました。

『全国大会で学んだこと』 横山 龍聖 (中1)

ぼくたちは、平成29年度少年消防クラブ交流会の代表として、徳島県に行きました。

ぼくは、初めて飛行機に乗りました。きれいな景色が見られてよかったです。

合同訓練は下から数えた方が早い順位となってしまい、とてもやしい思いをしました。次回は順位が上げられるように、今後の活動訓練を頑張っていきます。

全国大会で、とても仲良くなった友達が出来てうれしかったです。その友達にサインを書いてもらったので大切にしたいと思います。

また、仲間と協力し合う大切さも学ぶことが出来ました。この体験を生かして、今後の消防少年団活動では、仲間と協力し合って頑張りたいと思っています。



『全国大会の思い出』 横山 琥珀 (中1)

8月2日から4日まで徳島県で開催された全国大会では、クラブ紹介、あいあい温泉での入浴、避難所体験が思い出となりました。

1日目は、初めての飛行機に乗りました。クラブ紹介は大勢の人の前に出て、とても緊張しました。夜は少年団のみんなで1つの部屋に集まって、合同訓練の作戦を練り、翌日に備えました。

2日目は、とても暑い中の合同訓練で疲れましたが、みんな一生懸命に取り組むことが出来ました。最終順位は下から数えると早い順位だったけれど、みんなが競技を楽しめたので良かったです。温泉ですっきりした後の避難所体験は、同じ東京都の少年団員たちと協力してダンボールハウスを作りました。

充実した3日間でも思い出深いものとなりました。



『友達ができた』 柴田 美玖 (小5)

私は、徳島や四国に行くのは初めてで、とても楽しみにして交流会に向いました。

2日目の合同訓練の対抗リレーでは、色んなくん練障害があり、つづ先がバトン代わりでした。第4走者の私は、トンネルをくぐり、分岐金具を持って、次の走者に渡すのですが、走る途中で、かぶっていたヘルメットがトンネルの中で顔にかぶり、前が見えずに、ビリになってしまいました。最終の結果も下から数えた方が早い順位となり、残念でした。

でも、避難所体験では北海道の女の子ふたりと、バスの中では同じ東京都の男の子と、友達になることができました。他の少年消防クラブの友達が出来たことがとてもうれしかったです。



『助け合うことの大切さ』 山本 来羅 (小6)

ぼくが、この全国大会の活動で一番楽しかった事は、災害が起こった時のひなん所での生活を想定して体験する活動です。ダンボールハウスを作って寝たり、非常食を実際に食べました。グループのみんなで協力して、まず材料を集めて、テントマットをしき、その上にダンボールでできた部屋を置きました。それから、余ったダンボールで家具を作ったり、部屋の中に絵を描いたりもしました。自分が工夫して作った家具を部屋に置いてもらえて、うれしかったです。

この活動を通して、災害発生等の困った事があれば、みんなで協力して助け合うことが本当に大切なのだと学びました。



『体験を生かして』 上田 絆人 (小5)

ぼくは、徳島の全国大会に行ってきた、と思ったことが3つあります。1つ目は、色んな人とふれあえたことです。違う県や地区の人とふれあって知り合うことが出来ました。2つ目は、今まで経験したことがない特別なことが体験できたことです。ひなん所体験で、ダンボールハウスづくりなどいろいろありますが、横になったときは、ダンボールが固くて眠れないと思ったけど、その後眠れました。3つ目は、徳島のいいところやすごいところを知ることが出来ました。阿波おどりやあい染めなどを知ることが出来ました。

合同訓練の結果は良くなったですが、今回徳島で得た体験を今後の活動に生かし、全国大会に行けなかった団員にもその体験を伝えていきたいです。



暑い夏休み ～全国大会で芽生えた絆～



大井消防少年団は、平成28年に結団40周年を迎え、小学1年生から高校3年生までの団員70名で活動に取り組んでいます。

今回は、初めての全国大会出場でしたが、事前訓練の成果を発揮し、仲間同士の絆が深まる貴重な機会となりました。さらに防災学習では、避難所での過ごし方や徳島県の防災活動について多くのことを学ぶことができました。

3日間をとおして得たことを忘れず、今後に活かしていきたいです。

初めての全国大会 郡司 悠克

ぼくたち、大井消防少年団は初の全国大会出場で50チーム中24位、半分より上でした。悔しかったのが、リレーです。消火器の噴射が霧吹きのような水で、タイムロスをしてしまったからです。その分、タイムを引いてくれたらもっと上の順位にいたかと思う。しかし、障害物競走は巻き返すことができました。

来年、出場するメンバーにはちゃんと教えて、優勝を狙いたいです。



交流会を通して 山本 一翔

ぼくは、交流会を通し、他のクラブの人と仲良くなり、実際に避難所の体験ができ、本当に良い経験になりました。

また、日頃の訓練を試すことができました。しかし、消火器の水がしっかりと噴射せず時間をロスし、練習の成果を出し切れなかったことがすごく悔しいです。それさえなければもう少し、上の順位に絶対にいけます！

それ以外は、ものすごく楽しく、様々なことを実際に体験して学べたので参加できてよかったです。



初めての全国大会で 有坂 るり

私たちは、初めて全国大会に出場しました。一日目は、阿波踊りを見ました。二日目の合同訓練では、会場である消防学校に入った時から、とても緊張しました。でも、頑張って走ったので、半分より上の24位になりました。

他のクラブの人たちは、とても速かったのですが、私たちも十分走れたかなと思います。その後、段ボールハウスを作って寝る避難所体験をしました。

もっと体が痛くなるかと思ったけどぐっすり眠れました。しかし、これが何ヶ月も続くときつかなと思いました。

この大会で学んだことを、これからの活動や、生活にも生



かしたいと思います。貴重な体験をさせてくださりありがとうございました。

普段できない体験から学べたこと 山本 陽菜

私は、この全国大会を通して、自分たちの欠点などを発見することができました。上位に入賞しているチームは規律の正しいチームだったので、自分たちもしっかりやらなくてはならないと感じさせるような行動でした。避難所体験では、非常食を食べて自分たちで段ボールハウスを作るという初めての体験ができました。消防団の人の話を聞き、他県の人と交流することができました。

将来起こると予想されている、首都直下地震の備えもしないといけないと思いました。合同訓練では、6人で協力する



ことができました。今回、1位になれなかった悔しさをこれからの生活に活かしたいと思いました。

全国交流会の思い出 吉川 はる

私は、徳島県徳島市で行われた全国大会に出場しました。合同訓練では、今までの練習の成果が出て減点がありませんでした。2日目は、体育館で避難所体験をしました。段ボールハウスで寝るとゴソゴソして寝心地が良いとは言えませんでした。避難所で寝泊りするの、大変だと思いました。3日目は、地元の方々と交流しました。実際の現場は、どのようになっているのか、日々どんな訓練をしているのかなど、いろいろな貴重な話を聞きました。地域の人たちのために頑張っている方々はとてもかっこいいなと思いました。



今回の全国大会でとても良い経験ができました。

2度目の挑戦!! 仲間とともに



蒲田消防少年団は、現在小学校2年生から高校3年生までの45名で活動しています。指導者の多くは、地域の防災力の要である消防団で活躍しており、その方々の支援・指導を受けて日々訓練に励んでいます。

今年は昨年に引き続き2度目の参加です。昨年は合同訓練で悔しい思いをしたので、今年はさらに訓練に力を入れ、本番に挑みました。

交流会での経験を今後の少年団活動に活かし、素晴らしい地域の防災リーダーを目指します。



全国大会で学んだこと 二階堂 智子(中2)

私は全国大会に参加するのは初めてで、多少緊張はしましたが、それ以上にとっても楽しみでした。仲間とともに訓練を重ね、本番では17位に入ることができ、全力を出し切れたと思います。そして、全国のたくさんの仲間と交流を深め、多くのことを学びました。他の少年消防クラブと合同で作った段ボールハウスで過ごしたとき、避難所生活の難しさ、協力することの大切さを知ることができました。この経験を生かし、これからも頑張っていきたいと思います。



今回の大会に参加して 藤堂 いずみ(中2)

今回で2回目の参加でした。一番心に残っているのは、2日目の合同訓練です。昨年の成績は下から2番目とひどいものでしたが、今回は上から17番目と前回よりはるかに良い成績をとることができました。そして大会を通して気づいたことは、周りにいつもいる仲間の大切さです。もし災害が起きたとき、私一人では何もできません。周りに仲間がいるからこそこうして生活できているのだと思えた全国大会でした。



2回目となる全国大会 鈴木 ほのか(中2)

2回目の全国大会は、どんな感じなのかというワクワクした気持ちでいっぱいでした。初めて参加した昨年とは違い、普段の訓練のおかげで記録を伸ばすことができ、嬉しかったです。また、全国のいろいろなチームと交流し仲良くなれたことや、段ボールハウスで寝起きしたり、ご飯を食べたり、貴重な体験ができてよかったと改めて思いました。これからも積極的にこのような活動に参加したいと思います。



初めての交流会、勉強になった3日間 名城 良紀(中3)

僕は初めて交流会に参加し、良い思い出になりました。理由は2日目の合同訓練です。なぜなら全国の少年団や少年消防クラブのレベルの高さを知ることができたからです。自分たちの技術を磨いたり、積極的にコミュニケーションをとったりすることで、人との絆や防災の輪が広がっていることを今回の交流会で学ぶことができました。有事の際には地域の役に立てるよう、これからも訓練に励みます。



交流会を終えて 茶木 大智(中1)

僕は交流会を終えて、全国の少年団員はとてもフレンドリーに話しかけてくれて良い人たちだなと感じたり、合同訓練では他の少年団はレベルが高いなと感じました。段ボールハウスの寝泊りでは、思っていたより寝ることができたけど、寝心地はあまり良くなかったです。長い避難所生活が続くと辛いなと思いました。交流会で学んだことを普段の生活や、もしもの時に使うことができるようにしたいと思います。



「たくさんのことを学んだ3日間」



本田消防少年団は、団員66名で地域の防災リーダーとして活躍することを目標に、日々訓練に励んでいます。今年度初めてクラブ交流会に参加させていただき、中学1年生2名、小学6年生3名で挑みました。大会に向けて、普段の活動以外にも参加メンバーで練習会を行いました。

今大会でとても良い経験を積むことができ、団全体の士気もとても高まりました。この経験を今後の消防少年団の活動に活かしていきたいと思えます。

たくさん学んだ三日間 安嶋 義之 (中1)

今回、私は徳島県で開催された少年消防クラブ交流会に初めて参加しました。大会まで一生懸命練習をしました。徳島は綺麗なところで阿波踊りを見ました。2日目は大会で、みんなで精一杯頑張りましたが、入賞することはできませんでした。大会が終わったあとは温泉へ行って、その日の夜は避難体験をし、ダンボールハウスで一晩過ごしました。この体験は本当に災害にあったときに活かしたいと思います。最終日は徳島県の消防団の皆さんに話を聞いて色々なことを学びました。とても良い三日間でした。



徳島大会に参加して 古内 彬 (中1)

本田消防少年団は全国大会の初参加でした。ほかの参加しているクラブや少年団は同じ東京都内でも、聞いたことがなく、また色々な所から来た人達なので、上手く交流が出来るかどうかとても不安でしたが、指導者の人達が準備してくれた名前を書いて交流する扇子や、一日目の夕食、合同訓練、段ボールハウス作りで、多くのクラブ団員と仲良くなることができ、とても良い全国大会でした。また阿波踊りなど、とても良い経験をする事ができました。



全国大会で学んだこと 加賀美 諒 (小6)

私は、徳島県で行われた全国大会に参加して学んだことがあります。それは、仲間と協力する大切さです。二日目に行った合同点検やダンボールハウス作りは一人では絶対に来れません。仲間と共に協力して行うことで得られる達成感や悔しい気持ちはとても大切であると改めて感じました。次回の全国大会は学んだ事を活かし参加したいです。



全国大会に参加して 横松 晃輝 (小6)

ぼく達は今回初めて全国大会に出場しました。合同訓練では、練習時間が少なく50チーム中31位と悔しい結果になりましたが、仲間と力を合わせて競技をやりぬく事ができてよかったです。ダンボールハウスは、作るのが難しく思っていたより時間がかかりました。実際の避難所では、お年寄りや体の不自由な人もいますので、ぼく達も知っていれば手伝うことができると思いました。とてもいい経験ができました。



学んだこと 伊藤 つぼみ (小6)

私は徳島のクラブ交流会で学んだことが2つあります。1つ目は、練習の力を毎回出せるわけではないということです。練習で出たタイムが良かったので、いけるかと思ったのですが、本番ではあせってしまい良いタイムができませんでした。2つ目は、団結力が重要だということです。どんな時も、チームで一丸となるのが大切だと、改めて思いました。



体験・交流から学んだ3日間



葛西消防少年団は、平成12年に発団し、現在は指導者17名と小学1年生から高校3年生までの48名が集まって活動しています。少年消防クラブ交流会は今回が2回目でしたが、合同練習や避難所体験などを通して、全国の仲間たちと一緒に過ごした3日間はとても貴重な経験となりました。



忘れられない思い出

● 嶋本 和久 (中1)

少年消防クラブ交流会で初めての四国徳島に行きました。特に楽しかったことが2つあります。

1つ目は、クラブ対抗リレーです。僕は玉の代わりにホースを丸めたものを使うボーリングをやりました。

練習の時は何度やっても2、3本しか倒せなかったのですが、本番は何と「ストライク」、あの感動は今でも覚えています。

2つ目は、ダンボールハウス作りです。初対面の人たちとの作業はなかなか噛み合わなくて大変でしたが、普通以上のものは作れたと思います。充実感もあり意外によく寝れました。

この2つが印象に残りました。また行く機会があれば自分から参加したいと思いました。



全国大会で楽しかったこと

● 山本 ゆい (中1)

私は、全国大会に参加して楽しかったことが2つあります。1つは、合同訓練です。クラブ対抗リレーやクラブ対抗障害物競争では、みんなで協力して頑張りました。

結果は良いとは言えなかったけれど、楽しく出来たので良かったなあと思いました。

もう一つは、避難所体験で友達が出来たことです。話が合いとても楽しい時間を過ごすことが出来ました。

また、会う機会があれば話したいです。



全国大会に参加して学んだこと

● 副総隊長：中山 将智 (小6)

僕は、この大会で2つの事を学びました。1つ目は、日頃出来るのが少しの緊張で戸惑ってしまったから、いざという時の為に、普段からもっと緊張感を持つということ。

2つ目は、協力することで出来ることがあると言うことです。練習ではピンを倒すことが出来なかった人が、集中力で本番では全て倒すことが出来たのが本当に凄かったです。

総合での成績は残念ながら半分にも行かなくて悔しいが、みんなで協力して頑張ることが出来ました。

また、初めて徳島阿波踊りを見て踊って、その県の伝統芸を楽しみました。



今回参加して、見たり、体験したり、学んだり色々な出来事があった本当に楽しかったです。



充実した3日間

● 総隊長：赤穂 真幸 (小6)

僕は、葛西消防少年団の代表として、少年消防クラブ交流会に4人の仲間と一緒に参加しました。

1日目はオリエンテーションに参加、大勢の仲間と一緒に阿波踊りをしてとても楽しかったです。

2日目は合同訓練とダンボールハウス作りを体験しました。合同訓練のクラブ対抗リレーは、練習では出来ていたホースの連結が、緊張してうまく出来なかったが、障害物競争はホース延長もまき結びも練習通りに出来ました、チームが一致団結出来て良かったです。

避難所体験では、豊田市立四郷小学校チームと一緒にダン



ボールハウスを作りいろいろ話が出来とても楽しく交流を深めることが出来ました。

今回学んだことをこれからの活動にかいて行きたいと思います。



避難所体験で協力したこと

● 上村 美紀 (小5)

私は、全国大会に参加して楽しかったことは避難所体験です。1つ目は、私は人見知りでしたが友達が出来なかったのですが避難所体験で、浦安消防少年団と本田消防少年団の団員と友達が出来たことです。

2つ目は、グループでの協力です。私のグループは、みんなで協力してダンボールハウスの囲みを作りあげプライベートゾーンをダンボールで作って、仕切りにしました。

私は、体験をして人と協力をしないとダメだと思いました。



支えてくれるみんなの思いを背負って挑んだ全国大会



立川消防少年団は、立川市、国立市の二市から団員が集まり、49名で構成されています。今回は2回目の出場となりました。前回の17位という順位をバネに、上位を目指して練習を積み重ねてきました。6月から練習を初め、夏休みはほぼ毎日、練習回数は70回を超えました。今回の順位に満足せず次回はさらに上位を目指します。

努力が実った「5位入賞」 梅村 陽菜 (中3)

私たち立川消防少年団は、今年で二度目の参加となりました。大会当日は、とても暑かったけれど、良い緊張感を持って臨むことができました。結果は5位。あの瞬間は今でも忘れられません。今までのみんなの努力が実って本当にうれしかったです。また、今年はダンボールで昨年とは違ったものを作ることができ、こういう使い方もあるんだと学べました。この3日間、たくさんのクラブと交流でき、5位を勝ち取ることができ、とても良い思い出ができたと思います。



二度目の挑戦 五十嵐 里桜 (中1)

私は、二回目の少年消防クラブ交流会に参加して、仲間との絆がより深まったと思います。私達、立川消防少年団は、前回の悔しさを今回の合同訓練に活かせるようにアイデアを出し合い、練習をつみ重ねてきました。私は、今でも心臓が破裂しそうだった。あの結果発表のときのことをよく覚えています。五位の発表で私達のクラブの名前が読み上げられたとき、一瞬で嬉しさがこみ上げてきました。

このように、周りからの支えも受けながら、全員で勝ち取った五位と絆は、とても大切なものになったと思います。



次こそは負けない！ 高山 博雅 (小6)

ばくの心に残ったことは二つあります。一つ目は、大会中のことです。バトンを受け取り消火器を取って、目的に当てようと安全ピンを抜いたときに、少しかたくて、あれ、となったことが一つ目です。

二つ目は、練習です。夏休みに入ってから、毎日のように練習をしました。やるたびに暑くなり、毎日大変でした。でもそのおかげで全国大会五位に入賞できたのですから、でも三位以内に入れなかつたことが一番悔しいと実感しています。これからがんばります。



練習の成果を発揮できた全国大会 宮本 昌宗 (小6)

僕は、全国大会に参加するのは今年で二回目になります。立川消防少年団の六人の仲間と今年こそ入賞を目指したいと思いがんばりました。練習では、だんだんタイムが縮められるようになり、手ごたえを感じました。本番では、0.1秒差で五位を勝ち取れたので、本当に嬉しかったです。仲間を信じて、がんばってとてもいい思い出となりました。初めての徳島では、阿波おどりやうず潮を見ることができて楽しかったです。ありがとうございました。



全国大会の感想 前川 実貴 (小6)

八月二日から四日まで行われた全国大会に出場しました。初めは、練習が短かったけどだんだん長くなりました。でもそのおかげで五位に入れたのだと思います。

一日目は、飛行機に乗って徳島まで行きました。交流会の時、色々なチームがいて、名刺交換の時はすごく緊張したけど、みんなが笑顔で名刺を受取ってくれたのでうれしかったです。二日目はいよいよ大会当日で、他のチームがすごく早くて驚いたけど、皆がいてくれたので、安心しました。今年は五位だったけど、来年は優勝を目指したいです。



初めての全国大会 伊地知 瑞穂 (小5)

全国大会のオーディションに合格しなんとか補欠メンバーとして選ばれました。それから全国大会までメンバー全員で優勝に向けて練習をがんばりました。私の担当はホースの延長でした。みんなで頑張った結果は、第五位でした。目標だった入賞することができた事は、とてもうれしかったです。さらに、みんな大よろこびでした。また、参加できたら参加したいです。



交流会で学んだこと



昭島消防少年団は、小学校1年生から高校3年生までの65名の団員と22名の指導者で活動しています。初期消火や結索訓練、応急救護訓練など、防火防災に関する知識や技術を学ぶほか、地域の清掃活動、防災訓練など地域の活動にも積極的に参加しています。今回の交流会は、中学2年生5名が昭島消防少年団の代表として参加しました。

少年消防クラブ交流会を通して 井上 典信 (中2)

僕が交流会に参加して感じたことは、「仲間との絆」です。僕たち昭島消防少年団チームは、活動するときはずっと一緒に中学2年生仲良し5人組です。全員小学生からの仲で、すでに全員親友同士なのですが、今回の少年消防クラブ交流会のリレーや障害物競走を通して、さらに仲間との仲が深まったと思います。特に、一緒に頑張っている仲間がうまくいったときは「ヤッター!!」と心から感じる事ができたからです。そして、他の少年消防クラブの人とも仲良くなれたので、とても楽しかったです。

またこのような機会があれば行ってみたいと思いました。



『当たり前』の崩壊 内田 峻太 (中2)

私は、生まれてから今まで大災害と呼ばれる災害に遭遇したことが無い。それ故に、避難所という場所に対する私のイメージがいかに現実とかけ離れているかということを知った。今回の交流会で学んだ。

1日目の宿泊はホテルだった。電気も通っており、テレビも見られた。暖かい食事を取ることが出来た。きっと2日目も、ベッドがダンボールになるだけだと思っていた。しかし、現実とは違った。1人当たりのスペースはほんの僅か。テレビも電気も無かった。

災害はいつ起こるか分からない。何処にいるかもお構い無し。「当たり前」の崩壊に日々備えることが必要だと感じた。



最高な時 酒井 篤広 (中2)

今回の徳島での全国交流会では、いろいろ楽しいことや学ぶことができました。

特に、楽しいと感じたのは1日目の交流会。バイクでいるおいしいものを食べたり、参加した5人で楽しく話をしたりしました。

また、各少年消防クラブを紹介するときに、一緒に参加した内田君が印象に残る発表をしてくれたおかげで、他の少年消防クラブの人たちと仲良く話せるようになりました。学んだことは、3日目に地元の人たちの話を聞いたことや、歯医者さんから避難所生活の際の歯の磨き方など、いろいろ教えてもらったことです。最高の3日間でした。



交流会で 渡辺 裕賀 (中2)

僕は、この3日間経験値の多い体験をして色々学びました。

強く印象に残ったのは、ダンボールハウスでの生活です。ダンボールの工夫次第で様々な家具ができて、しきりもできて作業はアイデアだなあと思いました。被災者にとってはあまり嬉しいくない生活だとは思いますが、初めてやってみて荷はないので泊体験が丁度良かったです。

僕の地区は5年以内の爆発的災害発生確率が70%を超えているので、おそらく生きていくうちにかかるので、このような経験ができて良かったです。



交流会に参加して 宮崎 晃輔 (中2)

僕は、去年1つ上の学年から少年消防クラブ交流会の話聞いた時、第一印象は楽しそうだなと思いました。けれど、実際に行ってみると印象が変わりました。たしかに楽しかったけれど、それ以上にためになりました。

特に2日目の避難所体験ではいろいろなことを学びました。水がない時の歯のみがき方や避難所での食事などを教わりました。ダンボールで部屋を作ったとき、背中が痛くなりきつかったのですが、本当に避難した時はもしかしたらダンボールがもっと少ないかもしれないと思いました。

このようなことを考えることはなかったと思うので、今回交流会に参加してよかったと思います。





最高の パフォーマンスを 出せた3日間



町田消防少年団は、町田市の花サルビアに因み、「さるびあ隊」と称して、昭和53年5月20日に設立され、現在は団長、副団長を合わせた指導者18名と、団員76名(小学生47名、中学生23名、高校生6名)で構成されています。今回は6名の団員が交流会に参加しました。日本中のクラブ団員と交流を深めることができ、団員達の成長につながった夏の三日間となりました。

最高の全国大会 斉藤 圭汰 (中3)

僕は昨年町田消防少年団が初めて参加した全国大会にも出場しました。昨年は8位という惜しい結果になりましたが、僕は、昨年の全国大会も全力で頑張りました。そして今年の全国大会にも出場させてもらいました。今年の全国大会の出場者は僕以外は初めて参加する人たちでした。けれど練習をしているうちに初めて参加する人たちがものすごく頑張っていました。それを見て僕は昨年の順位を超えるためにもっと頑張るぞと思いました。そして20回近く練習をして本番を迎えました。本番はやっぱり緊張してしまいました。けれどその緊張にも負けず僕は競技を頑張りました。リレーのタイムはあまりよくなかったですが障害物競走では28.8秒という大会新記録を出せたのでものすごく嬉しかったです。この記録を出せたのはみんなのおかげだと僕は思います。僕は中学3年なので今年大会には出られませんが、次の代の選手たちに優勝してもらいたいです。今年の全国大会はとても楽しくできたのでよかったです。また全国3位という結果をとても嬉しく思っています。みんなでとった3位でよかったです。

僕の挑戦 金澤 空 (中2)

今回の全国大会で僕は、大きく二つの挑戦をしました。

まず一つ目は、この大会にでること自体です。僕はこのような大きな大会に出て、全国から集まった人々と競い合うということが初めてだったので、大会前日のホテルではなかなか寝つくことができなかつたのを覚えています。

二つ目の挑戦は、仲間と協力して戦うということです。僕は部活でテニスをやっていますが、基本的には個人競技です。そのため、連携をとれるかどうか心配に思っていました。しかし、大会に向けてとても多くの時間練習する中で、少しずつ自信を持つことができました。そして、その多くの練習は、本番前の緊張の中で、心の支えになってくれました。この経験を生かして、日常生活においても、日々の努力を大切にしたいと思います。

今回の大会では、練習通りにいった事もあれば、いかなかったこともありましたが、結果として総合3位という好成績を残すこともでき、このような素晴らしい経験ができたことは、とてもありがたく思います。



最高の思い出 小岩 夏暖 (中2)

3日間の全国大会。
町田消防少年団は今年で2度目の出場で、全国大会のメンバーに私も選ばれ、たくさんの方々にサポートされながら6月頃から日々練習をしてきました。だんだん本格的な練習になり緊張感も高まってきて残りの練習数もあと少し、結索やホース結合など細かいところの仕上げも終わり、ついに3日間がスタート。

本番1種目は、リレー競技で合図といっしょにスタートしてバトミスもなく順調な出だしで、多少のミスもあったけど5位というまずまずの結果でした。

そして2種目の障害物競走は、4チーム一斉にスタートしミスもなく、いつも通りのタイムで1位に、大会新記録という最高のタイムでした。

結果が発表された時、とても喜びました。たくさんの方々の応援が励みになり、ここまでできたこと、そして総合3位になれたことが最高の思い出です。

全国大会で学んだこと 細井 彩花 (中2)

私は全国大会に参加させてもらい一生懸命一つの目標に向かって協力し練習を行いました。仲間や全国の方とのたくさん交流ができました。

夜のクラブ紹介では、人数の多さに驚き緊張しました。阿波踊りをみんなで踊ったときは迫力がありました。2日目はケガで出場することができず悔しかったです。その分、リレーは精一杯応援しようと思って精一杯声を出しました。ミスもありましたが、「午後頑張ろう」と皆で切り替え取り組みました。そして、障害物競走では、28.8秒で1位でした。そして総合結果は3位、すごくうれしくて皆で喜びました。2日目の段ボールハウスでは沢山の友達ができうれしかったです。

仲間と練習を頑張ったこと、徳島にいったこと、阿波踊りを踊ったこと、3位になれたこと、沢山の思い出ができました。

指導者の方々、全国大会のために準備してくださった方々、ありがとうございました。



今自分に出来る最高のパフォーマンス 前田 さくら (中2)

初めて出場した全国大会。
練習では、八木団長さんに「もっと手を前に！ホースを押し出して」など厳しく言われていた。でも、「本番になったら忘れちゃうのにな。」と心のすみでは思っていた。練習の最後の方になるとホース投げがとても上達した。

いよいよ本番！心臓がドキドキして足が震え、私は「今私に出来る最高のパフォーマンスをする。」を目標に一生懸命走り、リレーでは惜しくも良い結果ではなかったが、障害物競走では日本一となり、大会新記録を樹立できたことはとても良かった。

結果総合3位。この結果はあの6人でやったからこそその結果だったと思う。この経験をいかしてこれからも活動をがんばっていきたい。



いい経験になった全国大会 佐藤 誠大 (中1)

僕は、今回初めて出場させてもらい、すごく楽しい3日間でした。いい思い出になりました。

1日目のクラブ紹介では、緊張しました。夕食の時間にいるいろんな少年団の人達に名刺を渡し、たくさんの人と交流をすることができました。

2日目の合同訓練で、午前の部では筒先がホースに入らないなどの失敗があり、5位でした。しかし、午後の部では練習通りうまくいき1位になり大会記録も出すことができ、結果は総合で3位でした。すごくうれしかったです。

今回の全国大会でいろいろな経験ができました。この経験を生かして今後の活動もがんばります。



日野消防少年団 東京都日野市

さまざまなトラブルを乗り越えて



日野消防少年団は、小学校2年生から高校3年生までの男女54名が在籍しており、今回は中学2年生団員3名、中学1年生団員1名、小学5年生団員1名の5名が団の代表として全国大会に出場しました。今回は怪我の為、大会直前に急ぎ選手交代があったり、現地入りしてからも急病や怪我等の様々なトラブルに見舞われましたが、多くの皆様のお力添えにより無事に交流会全日程を終了することができました。厚く御礼申し上げます。



3年間の経験が いかされて...

山内 月花 (中2)

私は今回全国大会に出場するのが3回目でした。でも、やはり出場3回目でも学ぶことはいっぱいありました。また、たくさんの思い出も出来ました。2日目の本番は良い結果ではなかったけど練習の成果を出されたので良かったです。ダンボールハウスでは3回目という経験をいかし靴箱を作ったりなど今までの中で一番のものが出来ました。3日目にはお礼の言葉を言わせてもらうという貴重な体験をさせて頂きました。徳島は2回目の参加でしたが1回目とは違って夏休みの最高の思い出となりました。



全国大会 山本 弓月 (中2)

今回の全国大会は、とても良い思い出になりました。1日目の夕食の時に阿波踊りを見させていただき、そのあと全国大会に参加している皆さんと阿波踊りを踊ったのはとても楽しかったです。徳島県の伝統や、文化を知ることができ、この全国大会に参加させてくれた皆さまには、感謝の気持ちでいっぱいです。来年は、中学3年生になります。また、参加して、全力でがんばりたいです。そして、今年は、怪我や風邪などでトラブルがおきましたが、最後は皆、笑顔で終えることができてよかったです。最後になりますが、消防署の方々、指導者の皆さま本当にありがとうございました。



沢山の経験ができた 交流会

古澤 瑠璃 (中2)

全国大会で印象に残っていることは、二日目の全国大会とダンボールハウスです。順位は大体半分くらいでしたが、練習で計ったタイムより早くなっていて声掛けも揃うようになっていたのでとてもうれしかったです。

ダンボールハウスは、はじめは、違うチームと一緒に作るのに仲良くなれるかな?と少し不安がありました。けれど「ダンボールを使ってなにを作ろうか?」と話しているうちに自然と堅い雰囲気はなくなってとても安心して過ごすことができました。

少年消防クラブ交流会で沢山の貴重な経験ができました。ありがとうございました。



全国大会で がんばったこと

根本 充夢 (小5)

ぼくは、全国大会でがんばったことがあります。それは、ホースボーリングと、4番員です。ホースボーリングは、ボールピンにあてるのがむずかしかったですが、練習では何回かストライクができました。

4番員のボーリングは、ホースボーリングで練習をしていたので、だいじょうぶでした。

他のやつもなんとかがいけました。今度行けたらもううまくなりたいです。



全国大会の感想 佐々木 充 (中1)

全国大会の初日の歓迎会で、地元の阿波踊りに参加しました。難しくて、なかなかのヘタッピぶりでした。2日目は全国大会でした。結案はうまくいきましたが、バトンを持って走る時にあせり過ぎました。順位は、真ん中位でした。3日目は現地の消防団員から、徳島では日ごろから災害への対策ができていて、いつでももうだつアリーナと云う避難場所が確保できていることを学びました。徳島ではもういつ災害がおきても冷静に判断できるんだなあと、また、東京もそうであればいいなと考えてみました。



コミュニケーションの 大切さを実感した交流会 若松 寛子 (指導者)

私にとって今年の引率は2回目でしたが、特に今回は多くの人に支えがあってこそこの交流会であったと感じました。それは、消防庁の事務局の方々だけでなく、他の団の方にあるお願いをした際にも快く協力してくださったりと、沢山の皆さんが協力して下さったおかげで無事に交流会を過ごすことができたのだと実感しています。そうした今回の交流会を通して、人と人とのコミュニケーションの大切さを改めて感じ、人間的に成長することができた交流会となりました。



秋川消防少年団は、交流会で全国の少年消防クラブの皆さんと交流を深め、様々な体験を通してひと回り成長できた3日間となりました。競技では7位という結果で、日頃の訓練の成果を十分発揮できたと思います。夏の日差しが照りつけるなか、団員全員で力を合わせ一生懸命頑張りました。今年は、全48名の団員の中から6名が代表で参加させていただきました。全国の仲間と切磋琢磨し、絆を築くことができました。交流会での体験を秋川消防少年団全員に伝えるとともに、これからの活動に活かしたいと思います。

全国大会を終えて

8月の2・3・4日の全国大会は、今年の夏1番の思い出になりました。この3日間でたくさんの友達ができ、避難所体験など貴重な経験をさせていただきました。合同訓練では悔いなく走りきることができ、良い成績を収めることができました。僕は今年で全国大会に行くのは3度目で、毎年楽しみにしていました。大会を支えてくださった方々、指導してくださった秋川消防少年団の指導者及び秋川消防署の方々、ありがとうございました。そして、僕たちの後輩が良い成績をとれるように応援しています。

野本 陽太 (中3)



遠藤 珠美 (中3)



最後の大会

私は3回連続でこの大会に出場させてもらい、他のメンバーもベテランでした。そのため、これまでの惜しい結果を今年は塗り替える！という気持ちが皆強かったです。なので、当日は入賞する意欲で挑みました。しかし、残念なことに結果は7位。トロフィーに触れることは叶いませんでした。あんなに応援してくださった指導者の方々に、とても申し訳なく思いました。けれどそれと同じくらい深く、感謝しています。本当にありがとうございました。結果は残念だったけれど、今年も良い仲間と楽しい思い出をつくれました。みんな、ありがとう。

夏1番の思い出

私は3度目の出場で今回が泣いても笑っても最後の全国大会でした。普段の活動の後にこの日のために、みんなで練習を重ねてきました。迎えた本番、精一杯頑張ってきたからこそその緊張で、落ち着いてはくれませんでした。手や脚に装備を身に着け、私たちの競技が始まりました。結果は7位。入賞を目指していた私たちには悔しい結果でしたが、全員が一生懸命に頑張ることができたので、最後の全国大会が素晴らしいものとなりました。他の少年団の人とも友達になることができて、私のこの夏の1番の思い出となりました。ありがとうございました。

石川 来実 (中3)



越沼 栞大 (中1)



あきらめない心

僕は、この交流会で「あきらめない心」を持つことができました。練習のときからなかなかのタイムを出せていて、優勝を狙う気持ちでこの大会に参加しました。でも、前日の夜、ホテルの地下駐車場で練習しているチームを見て、本当に勝てるのだろうかと不安になりました。最初の競技の順位が出て、1位のチームとの差に驚きました。でも、チーム全員で「次で取り返すぞ！」「絶対あきらめるな！」という気持ちで次の競技に臨みました。結果は7位でしたが、全員であきらめず1つになれたのでよかったです。

交流会を終えて

僕は、交流会を頑張れたと思います。自分は補欠でした。みんなと一緒に練習をして、誰の役でもできるようにしました。苦手だったもやい結びもできるようになりました。8月3日、ついに当日になり僕はすごい緊張していました。「もしも誰かが休んだらどうしよう」と思いました。でも、みんな休むことなく出れました。そして全ての種目が終わり、順位が発表されました。順位は7位でした。僕は、来年また全国大会に行けたらもっと良い順位をとりたいたです。

伊藤 倅太郎 (中1)



山崎 和也 (中1)



大会を通して感じたこと

僕は、今回の全国大会を通して感じたことが2つあります。感じたことの1つ目は、合同訓練についてです。僕は去年に引き続き2度目の大会出場となり、緊張もほぐれていて訓練についてはかなり自信がありました。ですが、結果は7位で嬉しい気持ちと同時に、上には上がいるんだと感じました。感じたことの2つ目は、避難所体験についてです。僕は段ボールハウスで1泊してみても、なかなか寝付けず大変な夜を過ごしました。その時、東日本大震災などで被災された方々は、本当に大変な思いをしたんだと身にしみて思いました。僕はこの貴重な体験を、今後の生活に活かしたいです。



自分を信じ、仲間を信じ、協力し合えた初出場の夏!



Risk Watch Yokohama Fire Team は、前在日米海軍司令部地域統合消防隊予防課長の長谷川祐子が任意団体として初めて立ち上げたチームです。

子供たちは、元気で素直な2年生から6年生までの12名。幼少期に学んだことは、必ず子供たちの心にいい影響を与え、災害国日本を生き抜き、どんなことがあっても決して折れることなく、良心に従い、まっすぐ生きる力のもとになると信じております。



初めての全国大会

奥田 夏七斗

僕は、リレーがうまくできました。練習の時、ホースはまっすぐ伸びたけど、的を全部たおせませんでした。でも、本番では全部のピンをたおすことができてうれしかったです。結果は40位だったので、予想よりは上でした。

2日目の夜は、ダンボールで寝ました。ダンボールを固くするやり方も教えてもらいました。1日目のごはんは多くてよかったけど、2、3日目はすごく少なくて2時間後くらいにはすぐおなかがすきました。来年はもっとうまくなって、30位とか20位になりたいです。



色々学んだ全国大会

米木 凜之介

僕の入っている少年消防団は、今年初めて全国大会に参加しました。結果は、自分たちが予想していた通り40位でしたが、みんな自分の実力を全部出せたと言って喜んでいました。あまりほかのチームと交流ができなかったのが残念でした。また全国大会に参加することがあったら、自分達から他のチームに交流していきたいです。

ひなん所体験では、色々なことを教えてもらったので、自分たちの町でひなん所生活になった時、今度はほかの人がみんなに教えてあげられます。これからも消防団で色々学んでいきたいです。



なかまと一緒に

宮城 悠太

僕は初めて全国大会に参加しました。少し練習不足だったので、うまくできるかどうか大会の時ちょっと緊張しましたが、なかまと協力してがんばりました。

ダンボールハウスづくりは楽しく学べたので、このけいけんを生かして、たくさんの人に教えてあげたいと思いました。



がんばったりレーや

避難所体験

米木 仁之介

ぼくはこの少年消防団全国大会に参加してみても色々な事を学べました。レースの結果は40位でした。練習の時より早くできたのでよかったです。来年の大会では、上位に入りたいです。

ひなん所生活では、ダンボールでいすや、つくえなどが作れることを知りました。夕食、朝食はとてもおいしかったけど、少なすぎてすぐにおなかがすいてしまいました。本当のひなん所生活でも、そうなのかなと思いました。

全国大会のけいけんを、消防団で生かしていきたいです。



楽しかった全国大会

檜山 宗一郎

はじめて「徳島へ行く」と聞いたときは、「えー」と思いました。全国大会に行くとなると心配になりました。そのころ、僕はあまり練習ができていなかったからです。しかも、知らない人と交流するのうまくできるか心配でした。でも、制服が届いたり、消防署の人と練習するうちにだんだん、楽しみになってきました。徳島空港で他のチームの人と会いました。体も大きくなって上手そうに見えました。会場に着くとたくさんの方が来ていました。家でしおりを読んでいたのが、大勢の人が来るとは思っていましたが、考えていた以上に大勢の人で、びっくりしました。本番の競技では緊張してあまり上手くできなかったですが、楽しかったです。ほかのチームとも結構話せました。ちょっと心配しながら行ったけれど、楽しかったです。今度はもっと練習して上手になって、全国大会に出たいです。

「多くの経験乗り越えて ～友情・挑戦・失敗から学ぶこと～」



大和市少年消防団は、市内在住の小学4年生から中学3年生の165人が団員として消防訓練、避難所体験訓練、救命講習や広報活動を行っています。年間25回程度の訓練の中で、他の学校、他の学年の子と出会い、つながりを深め、訓練を重ねることに成長していきます。今回は165人の代表として、5人の中学生が本気で優勝を目指して、交流会に臨みました。



「交流会を終えて」

● 藤本 敦尋 (中3)

第1回大会は台風でした。その中止になった大会に僕は出場する予定でした。その分、今回の大会にかけるとも強かったです。様々な特色を持つ、全国から集まったクラブ員と交流し、競技に挑む熱心な姿を目の当たりにして、活動している環境や住んでいる街は違っていても、やはりどこかでつながっていて、「チーム」なんだと感じました。徳島県で色々な思い出ができたこの大会を、僕は一生忘れません。



「交流会を終えて」

● 栗山 蓮 (中3)

僕は交流会を通じて学んだことが1つあります。それは「仲間の大切さ」です。なぜかという訓練を始めて最初の頃、なかなかタイムが伸びず、落ち込んでると、チームや同じチームの仲間が「無理しなくていいよ」と優しく声をかけてくれたおかげで頑張ることができました。それで仲間の大切さに気付くことができました。だから、僕は今回学んだことを、後輩たちに伝えて、今後の訓練がよりよいものにしていきたいと思いました。



未知の地での競技場

● 遠藤 愛果 (中3)

3年前訪れるはずだった地へ、新たな仲間と踏み出した気持は清々しかった。それとなく嫌な空気になったこともあったが、むしろそれが競技に向けて後押ししてくれた。4回という練習量の中で挑んだ今大会は9位に終わったが、おそらく1位を取るより良い結果だったと受け止めることができた。誰が良かった訳でも、悪かったわけでもない。そんな仲間のまとまった思いが、この大会を良いものにしたのだと思う。



交流会初日、少し緊張しています



「交流会を終えて」

● 鈞持 那月 (中3)

今回私は、少年消防クラブ交流会に参加して、よかったです。それは、1つの目標に向かってみんなで協力して取り組めたからです。私たちは「日本一のチームワークで優勝目指して突っ走れ」という目標を立て、何度も何度も練習をして頑張ってきました。ですが大会当日、みんな緊張してしまい、目指していたものより低い結果が出てしまいました。でも、本当に感動し、何よりも1番よかったのは、誰もチームの人のことを責めなかった事です。本当にみんな優しくて、このメンバーで大会に出場できてよかったと改めて思いました。そして、本当に大切に一生忘れられない思い出になりました。



競技直前、一致団結



「交流会に参加して」

● 永野 錦平 (中3)

今回、この交流会に参加してとても貴重な体験をしました。全国の全く知らない人たちとの交流、他のチームがどんな訓練をしていて、どのくらいの技量があるのが見たり、聞いたりしてすごく楽しかったです。大会をやって自分たちがどこまでの技量があるのかわかったので、自分たちの足りなかったところを意識して訓練をしたいです。この3日間、貴重な体験をしたので忘れてないで今後の訓練に活かしたいです。



競技後、全力で頑張りました



「子どもたちが学んだこと」

● 小林 一道 (指導者)

「日本一のチームワークで優勝目指して突っ走れ」という目標を子どもたちがたて、本気で優勝を目指して訓練に臨んでいました。結果は、訓練中にはなかったようなミスが重なり思うような結果ではなかったと思います。しかし、子どもたちは失敗の中から多くのことを感じ取り、大きく成長しました。子どもたちがこの交流会で学んできたことを今後の自分自身の人生、家族や友人のために活かしていってもらえればと強く願っています。



避難所体験訓練



閉会式で代表挨拶 藤本君

ドキドキ！ワクワク！初めての交流会



「蘇原第二小学校少年防火クラブ」は全校生徒566人がクラブ員として登録されています。クラブを代表して5年生3人、6年生3人の計6人で参加しました。交流会に参加するにあたり、消防署の方々から合同訓練の指導を受け、本番では両方の競技でベストタイムを出すことができました。



少年防火クラブでの体験

● 有吉 直希 (小6)

僕は、少年防火クラブの徳島研修メンバーに選ばれて、最初は何をするのかとドキドキしました。障害物リレーの訓練では、一秒でもタイムが速くなるように、がんばりました。障害物を乗り越えるために、足をスムーズに運べるように考えました。大会当日は、訓練ではあまりできなかった「もやい結び」も難なくできてほっとしました。消防士さんのやさしい指導のおかげです。14位という結果だったのは、訓練の成果が出たのだと思います。避難所体験では、ダンボールハウスを作るのに、2時間もかかったので大変でした。でも、自分の考えたダンボールの家具を作るのは、楽しかったです。



交流会で学んだこと

● 酒井 涼輔 (小6)

ぼくは交流会で学んだことが四つある。一つ目は、仲間のこと。知らない人とも話しているうちに仲良くなれることが分かった。二つ目は防災のこと。何をしたら、何をしなかったら災害を防げるのが分かった。三つ目は食べ物のこと。災害時は、たくさん食べられず、すぐに空腹になることが分かった。最後は、水のことである。災害時、水は貴重なので水は少量しか飲めず、歯磨きや洗顔もあまりできず、大変だということが分かった。



おはようございます。

● 沖原 司卓 (小6)

ラジオ体操の後、少年防火クラブの練習が始まりました。クラブ対抗リレー、クラブ対抗障害物競争。僕の知っているリレーや、障害物競争と違い、分岐金具をバトンのように運びながら、全速力で走るという、今まで体験したことのない、スーパー競技でした。僕は野球道具も自転車で運ぶくらいなので、手作業しながら重い物を持って走る事は、大変でした。最初は全然タイムが出ないし、7月の運動場は暑く、休けいをしながら、教えてもらいました。全国大会では上手く出来て、良い成績をおさめる事が出来ました。これも、僕達の指導員、各務原消防署員の方々のおかげです。SASUKEみたくではないけれど、いつも声が大きく、やさしく何度も教えてくれて感謝しています。N700系、マリナーライナー、うずしおと好きな新幹線と特急に乗れたこと。段ボールハウスの中で2時まで将棋を指したこと。今までの中で、最高の夏休みになりました。



交流会で楽しかった事、学んだ事

● 藤田 椋音 (小5)

わたしが楽しかった事は二つあります。一つ目は、他県のクラブ員と仲良くなれたことです。二つ目は、合同訓練で消防の人達が普段やっていることが出来たからです。学んだ事は二つあります。一つ目は、消防の人達の大変さが知れたことです。二つ目は、災害が起こった時に避難するにはどのようにすればいいのか分かったことです。交流会(全国大会)へ参加したのは岐阜県では初めてと聞きました。事前にたくさん訓練した成果が出て、50組中14位という好成绩だったので嬉しかったです。機会があればまた参加したいです。



有意義な3日間

● 正本 和暉 (小5)

僕は8月2日～4日までの3日間、少年防火クラブ交流会(全国大会)に岐阜県代表として参加しました。とても有意義な3日間でした。競技では、走る前はとても緊張しました。でも僕達のクラブが走り終わった時点では1位でとても嬉しかったです。結果は50クラブ中、14位でした。皆で頑張った結果なのでよかったです。競技はとても楽しかったので、もう1回走ってもいいなと思いました。避難所体験では段ボールハウスを作るのが、大仕事で時間もかかったし、とても大変でしたが、皆で協力する大切さを学びました。

3日間を通して、災害のことや消防団の方達の活動などについても知ることができて、とても勉強になり、いい思い出になりました。



全国大会に参加して

● 吉永 晴香 (小5)

全国大会に参加して、1番印象に残ったことは、大会で練習よりも速いタイムを出し、中学生もいる中で50チーム中14位という良い結果を出せたことです。練習の成果をひとりひとりが本番で出せたことが良い結果につながり、本当に嬉しかったです。しかし何より岐阜県代表メンバーとして全国大会に参加させてもらったことが1番の思い出です。

練習は短い期間でしたが、消防職員の方達の分かりやすく、熱いご指導は一生忘れません。ありがとうございました。



総移動距離700km! 貴重な経験ができた徳島県での3日間



四郷小学校少年消防クラブは、5・6年生全員が少年消防クラブ員として登録されており、その中から6年生6名が四郷小学校少年消防リーダークラブとして活動を行っています。地元消防署の方々や地域の消防団の方々から指導していただき、今回の交流会に臨みました。

全国交流会で印象に残ったこと 島袋 結安

ぼくは、この3日間で違う学校の人たちとも進んで交流できたと思います。もしも災害が起こり、知らない人と一緒に暮らすことになったら、初めて会った人とも交流していかないと困ると思いました。

徳島の文化について知ることもできました。藍色はもともと好きな色だったけど、藍の説明を聞いて、ますます好きになりました。

合同訓練は練習のようにはいかなかったけれど、それでも上位に入れたので良かったです。

3日間で多くのことが学べました。ぼくの住んでいる地域は大地震が起こると言われています。もしものときは、今回の経験を生かしていきたいです。



避難所体験で分かったこと 伊藤 璃那

2日目の夜に避難所体験をしました。避難所体験では、段ボールハウスを作ってそこで寝たり、非常食のカレーを食べたりしました。静かな体育館の中は、だれかが歩く足音だけでとてもうるさく感じました。寝るときは段ボールだけだったので、あまり寝られなくて、ここで1週間以上も寝るのは大変だと思いました。非常食のカレーはとても温かくておいしかったです。

もし災害があったらこんな生活をするということを感じておきたいです。



避難所体験をしてみた 山本 椰由奈

わたしは避難所体験をしてみて分かったことが2つあります。

1つ目は食事の面で大変なことが多いということです。ご飯はレトルト食品や缶づめなど、すぐに食べられるようなものしか、避難してきた人達に届かないそうです。

2つ目は段ボールハウスの作り方です。段ボールハウス作りでは、住みやすくなるように机やイスなどを作りました。イスは人が乗っても壊れないように作るのがとても難しかったです。

本当の地震がきたら避難所でいっぱいお手伝いをしてみたいです。



全国交流会に参加して思ったこと 清水 太陽

ぼくが全国交流会に参加して思ったことは、知らない人達とも会話をするの大切さです。段ボールハウスでは、初めて会った子達と一緒に寝ました。ダンボールハウス作りをしているときに、相手から話しかけてくれて、会話をしていたらいつの間にか仲良くなりました。初めて会う人とも会話をしていくことが災害時には必要だと思いました。3日間、いい経験ができたし、楽しかったので良かったです。またこういう機会があったら参加したいです。



全国交流会に参加して 田中 弦

ぼくが全国交流会に参加してみて、全国には少年消防クラブ員の人たちがたくさんいるということを知りました。全国交流会に参加したチームの数は50チームもあり、中学生も多くいました。合同訓練の結果は50クラブ中26位でした。中学生もいた中で26位はいい結果だったと思います。

ぼくは、この全国交流会での経験を生かして、災害時にはほんの少しでも力になれるようにしたいと思います。



『仲間との思いをつないでかけめけた3日間』



全校生徒 715 名全員がクラブ員の竜神中学校少年消防クラブは、地元消防団のみならずをはじめ、地域の方のご支援のもと、活動をしています。地域の消防署や消防団と連携した合同訓練をはじめ、消防団員の方の指導による防災訓練、防火・防災の普及啓発オリジナルステージ、ボランティア活動など、年間を通じて、多数の防火・防災に関する活動をしています。



優勝したその先に

中2 遠藤 あおい

私は今年初めて全国大会に出場しました。競技は、どれも先輩の「豊田竜神行くぞー。」という声で始まり、自分にも他のチームにも負けたくないという思い一心で走りました。それだけ全力を尽くした私たちでしたが、結果は準優勝でした。優勝したいという気持ちが強かったために、とても悔しかったです。でも、最後に優勝したチームが笑顔で話しかけてくれて、一緒に写真を撮りました。そのおかげで、私も笑顔で大会を終えることができました。そうやって交流していたとき、優勝しても私たちに大会前と同じように接してくれていることに気が付きました。負けたことに悔しさを感じたけれど、優勝しても竜神中を称えてくれたことに、やっぱり優勝チームはすごいなと尊敬の念を抱きました。そして、毎年、一位、二位を争い、互いを恐れ合い、高め合える関係があるというのは誇らしいことだと思います。そして、今回、優勝したチームのように、優勝しても驕らず、大会前と同じように



他のチームと接する姿勢は私も見習いたいです。消防クラブだけでなく、学校生活や部活でもトップに立つ器を持った、立派な人間になりたいと思いました。

訓練のアドバイスや励ましで心の支えになっていた消防署の方々へ感謝をしたいと思います。そして、今回の大切な経験を活かして、今後も活動をしていきたいです。



多くの人に支えられて

中3 妹尾 拓実

またたく間に過ぎた3日間の交流会。この3日間のためにたくさんの苦勞がありました。初めて全員で練習をしたときには、全然うまくいかず、昨年も経験している僕がみんなを引っ張らないといけないので焦りがありました。そんな中、大きな存在となったのは、消防署の方々です。熱心なご指導により、確実に上達していきました。当日も、大会参加のための移動や準備でたくさんの人に支えられている様子を見て、支えてくださった方々に対してのありがたさを身にしみて感じました。全国のクラブ員と交流し、一緒に食事をしたり、会話をしたり、寝たりする機会を作っていた方々、合同訓練のアドバイスや励ましで心の



支えになっていただいた消防署の方々に感謝をしたいと思います。そして、今回の大切な経験を活かして、今後も活動をしていきたいです。



仲間の思いをつなぐ

中3 石塚 大暉

初めての全国少年消防クラブ交流会に、胸がドキドキしていました。また、昨年の先輩方が優勝したこともあり、プレッシャーで押しつぶされそうでした。結索の練習を始めたとき、仲間が次々と結索をしていく中、あまり上手に結ぶことができず時間がかなりかかりました。また、リレーでは、第5走者となり、40mのホース延長です。練習では、結合に時間がかかってしまい、タイムが縮まりませんでした。しかし、渡し方や持ち方を話し合い、何度も何度も練習をしました。そして、迎えた本番。スタートの合図と同時に走り出し、どんどんつながるバトン。みんなの思いを受け取り、「確認」という仲間の声で、最後、一心不乱にゴールめがけて走りぬぎました。今まででやってき



た中で、一番の手ごたえを感じました。一人一人がつけてくれた「思い」を、ゴールラインまで届けることができてよかったです。



私の成功

中3 久野 真依

私の「本番」は本当にあっという間でした。時間にして約10秒程度。本当にすぐ終わりました。でも、その10秒はまぎれもなく運動部が感じている緊張感や闘志であり、小学校も中学校も文化部だった私には初めての経験でした。

結果だけというのなら、今回は「失敗」に入るのかもしれません。でも私にとっては、その「失敗」を大きく上回る「成功」の連続でした。メンバーの一人として、練習に参加し、消防署の方々の貴重なご指導をいただき、大会では全力を出し切りました。優勝チームが満面の笑みを浮かべる横で、「2位」の盾を持って笑顔で写真に写ることも、他県の消防クラブの人といろいろな話をするのも、すべてが私にとっては「成功」に入っていたのだと思います。悔しさももちろんありますが、終わった今ではとても良い経験が



できた心から感じています。最後まで私たちを見守ってくださった先生方、一緒に頑張ったメンバーのみんな、忙しい中ご指導に来てくださった消防署の方々、そして、練習の送り迎えや弁当を作ってくれた両親。たくさんの方への感謝の気持ちを忘れず、これを機に消防への意識をさらに高めて、今回の経験を日々の学校生活に活かしていきたいと思っています。

少年消防クラブ交流会を終えて



尾張旭市少年少女消防団は平成25年4月に結成し、現在、47名で活動しています。代表して参加した5名は、初めは少し緊張しておりましたが、全国から集まったクラブ員の皆さんから元気をもらい、いつも以上に活発に活動できた3日間であったと思います。この交流会でたくさんの人と交流し、みんなで協力して目標を達成した思い出や経験を生かし、将来の防災の担い手として、今後も頑張っていたきたいと思います。



いつもと違う3日間 浅見樹希哉 (中1)

いつも変わらない日々を過ごしていた夏休み。そんな中、交流会はいつもとは全く違う3日間でした。

訓練以外でも様々な場面、場所で新しい友達と助け合いながら楽しく過ごすことができました。特に合同訓練は一瞬で終わってしまうほど短いものですが、だからこそ、その一瞬に全力を出して取り組むことができました。

そんな充実した3日間は大切な思い出にもなり、参加して本当に良かったと思いました。



交流会での3日間 西脇 大翔 (中1)



僕は少年消防クラブ交流会に参加し、色々な体験をしました。1日目の夜ご飯はバイキングでした。そこでクラブ紹介をした阿波踊りを見たり踊ったりしました。阿波踊りを覚えたかったけど難しかったです。

2日目、段ボールハウスで寝る時に違うクラブの子と寝るので最初不安だったけどすぐに仲良くなりました。でも寝心地は悪く、これが何日も続く避難所生活は大変だと思いました。

3日間交流や体験ができ参加して良かったです。

初めての交流会で 佐藤 祐貴人 (中1)

僕は、少年少女消防団に入団して初めて全国交流会に参加しました。参加が決まった時は少し不安でしたが、合同訓練の練習をするうちにみんなと仲良くなり、だんだん交流会が待ち遠しくなりました。

交流会での3日間はとても楽しく、2日目の合同訓練の順位はあまりよくなかったけれど、チームで団結して出来て良かったです。

避難所体験では、他のクラブ員の人たちとも仲良くなり、友達がたくさんできました。

いろいろな経験ができて本当に良かったと思いました。



合同訓練と達成感 鈴木 凜 (中1)



参加が決まって「やったー！徳島に行ける！」と嬉しかったけど合同訓練が上手くできるかとても不安でした。

初日の自己紹介ではすごく緊張しました。2日目の合同訓練は思っていたより早くでき、自分の役割を果たせた事、みんなでやり遂げることができた事への達成感がありました。

非常食はちょっと抵抗があったけど想像していたよりかなり美味しかったです。また、ダンボールハウスはやはり寝心地が悪く被災者の気持ちが少しわかり普段はできない良い経験ができました。

たくさんの仲間たちと充実した3日間 平田 唯華 (小6)

今回の交流会では色々な地域の人たちと協力し、ダンボールハウスを作って宿泊する避難所体験が心に残っています。避難所体験では大井消防少年団と城陽少年消防クラブの子と一緒に過ごし、仲間になりました。避難所体験は体育館で行ったのでとても暑く、避難生活はとても大変だと思いました。

徳島の小学校では、避難する時6年生と1年生がペアを組み津波から逃げるそうです。とても工夫していると思いました。

私も何か出来る事が無いか考えてみたいと思います。



平成29年度少年消防クラブ交流会(全国大会)を終えて



城陽少年消防クラブは、市内在住の小学校4年生から6年生がクラブ員としての資格を有し、現在、25名のクラブ員が火事のない社会づくりに貢献することを目指し、防火教育や厳しい規律訓練に取り組むとともに、様々なイベントを通して親睦を深めています。今回の交流会には、代表として6年生3人、5年生2人の5名が参加しました。

学んだ力と思い 南野 つぐみ (小6)

私は、8月の2、3、4日に消防クラブでの全国大会に参加しました。

私は今回の経験を通して学んだことがあります。1つ目はみんなで協力する力です。借しくも1位は取れませんが、みんなで協力して競技を行えたので、きずなが深まったと思います。

2つ目は避難所体験を通してです。たくさんの友達とふれ合ったり、いろいろなケアの仕方などを学びました。実際災害にあった人々はこんなことをしているのかと思うと、よりいっそうクラブの仕事に力が入りました。

私は今回学んだ事をたくさんの事に活かしていきたいです。学校の友達にも教えてあげたいと思います。



交流会に参加して学べたこと 堀江 勇太 (小6)

ぼくは、交流会でいろいろなことを学びました。特に、二日目の夜の避難所体験を通して、日常のありがたみをすごく感じました。

ダンボールハウスは、ダンボールなのでかたくて痛かったです。ぼくは、1泊でしたが、実際に被災された方は、もっと大変だったと思います。災害はいつ起こるかかわからないので、避難するところを話し合い一番安全な場所に避難することが大切なことだと感じました。この3日間いろいろな体験をして、防災の知識も身についたので、今後の生活に活かしていきたいです。



全国大会の感想 吉本 雨 (小5)

私は、この大会に出られてとてもうれしかったです。私は消火器で火を消すことをしました。とても簡単で楽しいです。いっぱい練習して大会でもがんばろうと思いました。

それで大会でがんばってやりましたが44位でした。でも44位でもうれしいと思います。それは50~44位だからです。それで、また大会に出られたら練習をもっとがんばって大会でもがんばりたいです。後、暑さにもたえなげやあまり元気が出ないと思います。できれば、また大会に出たいと思います。そのためには家でも練習を頑張ります！！



全国大会に参加して 三浦 万奈 (小6)

私は、全国大会に参加して、たくさんのことを学びました。日本では、たくさんの人が少年消防クラブに入り、訓練を受けて、頑張っているとわかりました。全国大会の結果は、あまり良くなかったけど、いろいろなことができて良かったと思います。

この3日間は、とても良い経験になりました。本当にありがとうございます。



たのしかった大会 吉本 姫 (小5)

大会で私がやるホースボーリングは失敗してしまいました。残念でした。もしまた次の大会に出られるならまた、ホースボーリングをちょうせんしたいと思っています。

大会が終わってからは、ダンボールハウスを作りました。作るとき、たくさんの友だちができたのでうれしかったです。避難所体験がすごくおもしろく、たのしかったです。夜ご飯のカレーがおいしかったです。また大会にいけるなら、もういちどホースボーリングにちょうせんしたいと思っています。



全国の仲間との交流。絆を紡いだ3日間



河南町ファイアジュニアは平成23年11月に発足し、中学3年生から小学4年生まで総員23名(平成29年4月現在)のクラブ員がいます。今回の徳島県で開催された交流会には、参加希望者多数のなか、クラブを代表して中学2年生2名、中学1年生1名、小学5年生2名の男女5名が参加しました。



谷川 愛理 (中2)

私は、二度目の全国大会に参加しました。一日目は、芸能鑑賞と、全国交流がありました。芸能鑑賞では、阿波踊りを見ました。そして二日目は、場所を移動して、競技に参加しました。暑い中競技をするのはしんどかったです。その晩はアリーナで、ダンボールをひいて寝ました。あまり体験した事がなかったから寝れなかったです。この交流会でいろんな人と会話したり、いろんなことを学びました。また来年も参加できるように頑張りたいです。



上田 夢生 (中2)

8月2日から8月4日まで徳島県での全国大会に参加させてもらって、ホテルに泊まって阿波踊りを見たりみんなでご飯を食べたり、たくさん友達ができ楽しかったです。

大会本番で私は、本当に緊張していました。他県の消防の人はすごかったです!私のチームは47位だったけど、チーム一丸となってできたと思っています。終わってからはお風呂に入りました。とても広くて、ゲームもしたりとても楽しかったです。

お風呂に入ってから災害の時に使うダンボールイス、机、下駄箱などをつくり、とても役にたつと思いました。地震がきた時に私がダンボールで、みなさんに作ったりしたいので、もっとなんでも作れるように友達とか家族に教えています。たったの3日間だったけれど、良い体験になりました。来年も行きたいと思っています。私も役立てるよう頑張りたいと思います。



岩田 流星 (小5)

僕は、今年初めて全国少年消防クラブ交流会に参加しました。大会で僕はリレーではトンネルをやりました。練習では、大きいトンネルをくぐったりしてたけど本番では小さかったので通りにくかったです。障害物競争では指揮者でした。指揮者がもしも転んでしまったらどうしようと思いました。だけどこげなかったのが安心しました。夜は、避難所体験をしました。ダンボールで家を作りました。体が痛かったので寝にくかったけれど、良い体験ができたと思います。今回の大会は、結果は良くなかったけど楽しかったので、来年もこのチームで優勝したいです。



平 龍之介 (中1)

今回の大会で、様々なことを学びました。一つは、人と人との繋がりです。ダンボールハウスでも、協力をすれば、初対面の子でも仲良くなれたり、うだつアリーナでの話でも、地域の連携なども大事と聞いたので、やっぱり人の繋がりは大切だと思いました。二つ目は普段の生活の尊さを感じたことです。去年も行ったのですが、ダンボールが固くて、背中がとても痛くなったりしましたが、本当に被災した方達はこれが何日間続くか分からない状態で何日も暮らしていたと思うと、普通の生活をすることが、どれだけ幸せなのかよく分かりました。



立蔵 陽斗 (小5)

今回初めての全国少年消防クラブ交流会で、何より良かったのは都道府県全ての人と仲良くなることができたことです。僕は多くのことを学びました。家がなくなるとダンボールハウスで寝ないといけないことです。トイレは今回はあったけど本当に大地震があるとトイレもダンボールで作らないといけないことです。今回ダンボールで色々なものを作るときはとても楽しかったし、こんなものを作ったら良いというのもわかりました。大阪にも大地震があるとされているので、その時に備えてこれからも色々学んだりしていきたいです。僕はこんなことが一回でもあると良い経験になると思ったのでまた来年も行きたいです。



全国の仲間と共に競い、学んだ3日間



東川崎防災ジュニアチームは、神戸市立湊翔楠中学校の生徒8名が隊員として登録、毎月1回、防災や救急に関する訓練、講習等を行っています。今回の全国交流会は、中学3年生2名、中学2年生4名の合計6名が参加し、クラブ対抗リレーで全国の仲間と競い、避難所体験では、他のクラブ員と協力して宿泊体験を行いました。今後、これらの経験を生かして地域防災力向上に努めていきます。



初めての全国大会

岩井 那真子 (中3)

私が所属している東川崎防災ジュニアチームは、初めてこの全国大会に出場しました。最初はとても不安でした。「このチームの皆で協力できるのかな」という思いでいっぱいでした。でも三日間を終えると、「もう一回全国大会がしたい」というやる気になっていました。それ以上に感じたことは達成感でした。全国大会の結果は真ん中より少し上だったので来年は15位以内に入りたいです。



全国大会に参加して

坂本 匠海 (中3)

僕は、今回初めての参加で期待と不安が胸がいっぱいでした。特に印象に残った事は、やはり段ボールハウスの避難所体験です。一泊だけで楽しく快適だったけど、先が見えず不安な思いで何日も過ごすことを考えると、どれだけ大変な事だろうと思いました。

この3日間で、とても貴重な体験をする事ができて本当によかったです。僕らの参加のために、暑期中、熱心に指導してくださった方々に対して感謝の気持ちでいっぱいです。



全国大会に参加して

石橋 侑晟 (中2)

僕たち東川崎防災ジュニアチームは、今回初めて少年消防クラブ交流会(全国大会)に参加しました。この交流会で学んだ事はたくさんあり、一番印象に残っているのは、段ボールハウスで寝た事です。

自分達で一から作ったのですが、床が硬くて浅い眠りでした。そして、朝起きたら腰や首、体の節々が痛い痛い。たった一泊でこれなら被災者はどんなにつらかったか、想像しただけで大変な事が分かります。今回いい体験ができました。



心に残った交流会

田良原 萌 (中2)

徳島での交流会、笑ったり泣いたり、喧嘩したりちょっと怒られたりと、いそがしい三日間でした。けれど、その分仲間との絆がとても深まった三日間でもありました。全国大会での順位は21位。初参加としてはなかなか良い成績なんじゃないかなと思いました。この三日間、本当に貴重な経験をしたと心の底から思います。また来年も参加して、次は10位以内に入れるよう、日々の練習を大切にがんばっていきます。



交流会の思い出

上野 夢月 (中2)

私は初参加となったこの交流会で多くのことを学びました。クラブ対抗リレーの練習の時にはホースが真っすぐ伸びず、ピンを倒すことができませんでした。しかし、練習していくうちに何本か倒せるようになり、本番では5本倒すことができました。2日目の段ボールハウス作りでは、丈夫に作るのが難しかったです。避難してくる人達は、大変だなと思いました。また参加したいです。



全国交流会

山中 佳奈 (中2)

私は、今回の全国交流会で、仲間との絆を深めることが出来ました。少ない練習時間で挑み、初参加で21位という成績を残せました。段ボールハウスでは、壁に絵を描きまくり、朝目が覚めるとびっくりしてしまいました。でも、本当は電気が来ないので、夜は暑いだろうと思いました。

私は今回の全国交流会で深めた絆をこれからの学校生活に生かしたいです。



「徳島県大会で学んだ事！」



私たちは次年度の組織強化につながるよう、メンバー五名が大会に参加しました。大会前の練習では、消防署より技術ポイントの指導や、学校から部活動日の調整などをして頂きました。大会期間中では全国の仲間と意見交換は勿論、地元小中学校の活動発表や消防団の活動の様子をお話し頂きました。今回参加したメンバーの今後の活躍を大いに期待致します。ご指導頂いた皆様、大変お世話様になりました。

● 光永 響輝 (小6)

大会で色々な事をしっかりと学びました。一つ目は合同練習です。大会前の練習で「リレー」で重たい分岐金具を落とさないかと心配していましたが、本番では落とさずに搬送でき、とてもよい走りができました。「障害物」では焦らず慌てず確実に、もやい結びができ、指揮者としての役目がしっかりできました。そして「仲間・協力・全力」が、とても大事だと分かりました。二つ目は期間中に多くのクラブ員に会えて互いに初対面だけれども「防災の友達」ということが分かり色々と話ができたことです。すごく楽しい大会でした。



暑さには負けません！

● 藤原 康平 (中1)

大会で新たに学べたことがある。それは災害での被災者の厳しい生活環境だ。僕はいつも布団で寝ることが当然だと思っていたが、避難所ではそうではないことが分かった。段ボールの床はとても固く眠れない。また、スペースが限られプライバシーが確保しにくく、生活用品などの保管棚もなく、とても厳しい状態で過ごさねばならないと言うことだ。僕たちは避難所体験では段ボールで更衣室、靴箱、テーブルなど色々な物を話し合いながら作った。今回の大会で学んだ災害時の厳しさ、そして人との交流の大切さを今後の生活に活かしていきたい。



皆がんばれ！ 指揮者の声



● 弘中 晴基 (中1)

大会で貴重な体験ができました。二日目の合同練習の時、自分たちの順番が来るまでは休息していたが、出番が近づくにつれ緊張しました。最初のリレーでは第一走者として障害壁を無事越えて自分達なりに上手くいきましたが、他のチームも十分な練習成果を出しているようでした。次の障害物競争では、四番員として二重巻きホースを延長、ロープ結策に挑みました。夕方の体育館での避難所体験の時、段ボールハウス作りは大変でした。そのうえ、寝る時はとても寝づらく災害にあった人はとても辛い思いをしていると感じました。



競技を前に微調整

● 中村 颯太 (中1)

僕は、競技ではリレー競争で水消火器、障害物競争では三番員としてホースを搬送しながら溝を越えホースを結合、ロープ結策でブルージック結びをしました。審査は速さだけでなく、規定通りの正確性が要求され、また各チームとも事前練習をしっかりと行ったためか、0.1秒の差で順位が目まぐるしく入れ替わる大変な競技内容でした。僕たちのチームは、大会前に同じ神戸市から参加の「東川崎防災ジュニアチーム」と合同練習をしました。そして本番では互いに声援を送りながら皆で健闘し、とてもたくさん勉強できた交流会でした。



競技前の食事バランスは完璧

● 早田 悠太 (中1)

この大会に参加できたことを嬉しく思います。一番嬉しかったのは、練習で何時も失敗していたクラブ対抗リレーのホースボウリングが成功し競技後に指導者から「場内アナウンスで『ピンが全て倒れた！』と言ってくれた」と聞いたことです。二日目の避難所体験の段ボールハウス作りでは、生活するのに必要な物を皆で色々話し合い、アイデアを出して快適で過ごしやすいハウスを作ったつもりですが、やっぱり「家」で過ごす方が良い。この大会を通して貴重な体験ができて良かったです。



靴箱を作成中

少年消防クラブ交流会を終えて



尼崎市立小園中学校少年消防クラブは、学校の生徒全員が少年消防クラブ員として登録されています。今回、徳島で開催された交流会には、2年生1名、1年生4名の5名が参加しました。



いろいろな事を学んだ少年消防クラブ交流会

市村 彰浩 (中2)

僕は、この少年消防クラブ交流会を通して学んだことは、みんなで協力し合うことで、一人では出来ないことがたくさんありました。避難所体験では、他のクラブの方々と協力して段ボールハウスを作りました。そして僕は、仮設住宅へ入居されたとはいえ、現在も不便な生活をしている人たちがいるということを改めて考えることが出来た体験になりました。



見直すことができた自分

青木 和志 (中1)

僕は、この3日間で消防のことに关して見直すことが出来ました。例えば、消防隊の人たちのことです。僕達も経験しましたが、すごくホースなど運ぶのが重くて、しんどいのを暑い中やっていますすごいと思いました。消防隊の人は、いつもどんなことしているのかわからなかったけれど、この3日間で消防隊の人たちの気持ちが分かりました。

僕は、消防隊にはなれないけれど、人の役に立つことがしたいです。



全国少年消防クラブ交流会

大島 真央 (中1)

最初、全国と聞いて、なんでいきなりと思いました。全国大会と聞いて、頑張ろうと思いました。

練習の成果を十分に発揮出来たかどうかは分かりませんが、皆と一生懸命に取り組めたことが、良い思い出になりました。一日目の夕食もとても美味しく、部屋のベッドも2つあって、テレビもあって、窓からの景色もキレイで、最高でした。



体験して分かったこと

成尾 大耀 (中1)

少年消防クラブ交流会を体験して分かったこと、合同訓練に出て、成績は十五位でした。僕は、満足している一面と悔しい一面もあります。僕が一番体験して分かったことは、段ボールハウスで寝たことです。背中や腰が痛くて、震災で避難した人たちの気持ちが分かった気がしました。そして、このような訓練や体験が出来たことは、今後の人生において必ずプラスになると思います。



全国少年消防クラブ交流会を終えて

野元堀 武尊 (中1)

ぼくは、この交流会を通して、いろいろな良い経験ができたので、とても良かったです。なぜなら、徳島に行ったことも初めてだし、この消防のこともいっぱい知れたからです。消防で知れたのは、ブルージックという結び方です。この結び方は、どんな場所でも使えるので、どこかで使ってみたいです。この交流会に行けてとてもうれしかったです。



仲間と助け合う大切さを学んだ3日間



たつの・太子少年消防クラブは、78名のクラブ員で構成されています。年間の活動は、消防・防災施設の視察研修や消防署での1泊2日の体験学習会、消防出初式に参加といった活動を行っています。今回は、78名の中から中学2年生3名・中学1年生1名、小学6年生1名の計5名で交流会に参加しました。2年ぶりの参加でしたが、初めて体験することが多く、充実した3日間でした。



平成29年度、少年消防クラブ交流会に参加して…

井貫 克海 (中2)

今回、交流会に参加して、心に残った事は、一つ目に、5人で参加した合同訓練です。クラブ対抗戦の結果はあまり良くはなかったけれど、5人で協力し頑張れたことは良かったと思います。

二つ目は避難所体験です。段ボールを使い、違うチームの人達と工夫しながらいい段ボールハウスができたと思います。今回、同じチームの友達と助け合うことの大切さを学べた事と、違うチームの人達との交流ができた事は良かったです。楽しい交流会になり参加して良かったです。



全国交流大会において

大河内 聖也 (中2)

僕は全国交流大会に参加させてもらったのは、2年ぶり2回目でした。2年前初めて参加した時は不安と緊張でしたが、今回は緊張する事なく障害物リレーをする事が出来ました。今回は2年前の反省を踏まえてホースを早く伸ばす事と早く結合する事などを考えました。部活もあり、皆が揃って練習出来る日は限られていましたが、大会に向けて一生懸命練習をしました。当日は僕が思った以上に上手くいきましたが、納得のいくタイムではなかったのが残念でした。しかし2年前よりも早く出来たのが良かったです。来年も参加する事が可能であれば、優勝を目指して頑張りたいです。普段では体験出来ない事が沢山あったので、とても貴重な日を過ごす事が出来ました。



「交流会の思い出」

玉田 輝正 (中2)

今回徳島に行って、一番心に残っているのは合同練習です。僕は走るのが余り早くないので、チームの役に立たなかったかもしれませんが、いい経験になったと思います。二番目に心に残っているのが、避難所訓練でダンボールの家で寝たことです。ダンボールで家を作るとは滅多にないので、とても楽しかったです。寝るときに少し背中が痛かったけどよく寝られました。今回徳島で学んだことを生かして頑張りたいです。



全国交流大会

山根 康太郎 (中1)

僕は今回初めて消防の全国交流大会に参加しました。練習ではロープの結び方も覚えられなかったけど、本番ではちゃんと結べました。よい成績ではなかったけど、チームの仲間と協力して挑戦できたので楽しかったです。避難所体験では、ダンボールで家を作ったり、非常食を食べたりし、普段できない体験ができました。ダンボールハウスで寝て起きた朝、足が痛ったことは忘れません。今回の大会に参加して体験したことが、いざという時に自分や誰かの役に立てれば良いなと思います。



「交流会の感想」

玉田 康仁 (小6)

8月2日から4日に、消防クラブ全国交流大会がありました。一日目はホテルで地元の阿波踊りを見ました。二日目は訓練場で大会に参加しました。僕はトンネルくぐりとホースつなぎを一生懸命やりました。余りいい結果ではなかったけど楽しかったです。そのあと、うだつアリーナでダンボールハウスを作って寝ました。三日目は徳島の方から話を聞いて帰りました。とても楽しい3日間でした。



たくさんの仲間たちと出会った、初めての全国大会



青崎地区少年消防クラブは、青崎小学校と向洋新町小学校の児童で構成されており、クラブ活動を通じて火災予防や119番通報、消火訓練、応急手当の方法などの知識を身に付け、家族、友達、そして地域に火災予防の大切さを広めるべく活動しています。今回の交流会には、小学6年生1名と小学5年生4名が参加しました。交流会には初めての参加でしたが、全国のクラブ員の方々と交流することができ、とても充実した3日間になりました。

少年消防クラブ交流会 吉木 紀久生 (指導者)

今回の交流会には、小学6年生1名と小学5年生4名の計5名が参加しました。たくさんのご指導をいただきながら、訓練に励み、大会でも訓練してきた成果を発揮することができました。各クラブ員には、今回の交流会で得たもの、感じたことを今後の生活に活かしてもらいたいです。



初めての全国大会 谷本 寿有 (小6)

僕は、初めて全国大会に参加しました。1番印象に残っているのは、みんなで協力してダンボールハウスなどを作った事です。そこで、避難所生活で使えるダンボールの活用を学びました。作成は大変だったけど、災害などがあった時に学んだ事を活かしたら良いなと思いました。また、全国各地から来ている他のクラブ員とも、交流をして友達が出来ました。とても楽しかったです。貴重な体験がたくさん出来ました。ありがとうございました。



たくさんの経験 松谷 悉花 (小5)

私は、初めて全国大会に参加しました。最初は、不安だなと思っていて、参加人数が学校の児童ぐらいいることには、驚きました。

競技の1番初めのチームだったので、緊張しました。結果は、49位でしたが、どこのチームより頑張れたので、良かったなと思いました。

ダンボールハウスでは、みんなで協力しないとできないことも分かり、机を作ってもすぐ壊れるので、不便だということも分かりました。なので、災害が起きた時は、すごく大変だろうなと思いました。

とても良い経験が出来た夏休みになりました。



初めての全国大会 田邊 葉一 (小5)

8月2日から4日まで、全国大会に行きました。僕は第4走者でした。早く僕の番にならないかドキドキしていました。滑り出しは順調で少しリードしていましたがトンネルを出るとき足を滑らせてしまい少し遅れてしまいました。

ですが、上田君がスムーズにつなげてくれて早くゴールできたと思います。障害物競争では、僕が足を引っ張ってしまったのでタイムが遅れてしまいました。悔しかったのでまた機会があったらもっと練習してみんなに迷惑がかからないよう素早く動けるように基礎体力もつけて10位以内に入れるようにしたいです。



交流会に参加して 田中 琴乃 (小5)

全国大会で心に残ったことは、ダンボールハウスで寝たことです。ダンボールハウスは作るのも大変だし、すぐにいろいろなところが壊れるので大変でした。しかも下が固いので、寝にくかったです。机を作ってもすぐに壊れるので不便だなと思いました。この全国大会で学んだことを、本当に災害がおきた時に活かそうと思いました。改めて、災害がおきたときは、大変だなと思いました。



消防全国大会に初参加して 上田 悠雅 (小5)

僕たちは徳島県で開催された消防全国大会に出場しました。とても強そうなチームや、とても足が速そうなチームもいてドキドキしました。競争で僕の前の友達がいいバトンつなぎをしてくれていい結果でした。競争終了後、体育館で避難所体験をしました。ダンボールでベッドや枕を作りみんなで協力してできた部屋で寝ました。

とても貴重な体験でした。今回勉強したことを日頃に活かして次の大会では全国1位を狙って頑張りたいです。



競技と交流を充実させてホップステップジャンプ！



比治山BFCは公民館グループや学区子ども会にも所属し、『地域まちづくり』に防火呼びかけや鼓笛演奏などで参加をしています。幼年部から中学三年まで在籍高校生になると準指導者として育成。文武両道！個性をいかしながら協調性を養える指導を目指しています。今回は段原中学校の5名で参加。校歌に託されたヒロシマの使命を交流で果たせるよう皆さんのご協力を頂きました。



初めて消防大会に出場して

福本 琉太 (中1)

僕たち比治山BFCは全国の消防クラブが集まって交流や訓練をする大会に参加しました。僕は初めての参加で思い出に残ったことが二つあります。一つ目はロープの結び方など、間違いなく練習の成果をだせて嬉しかったです。二つ目はチームのみんなと仲良くできたことです。先輩方もすごく優しくして面白くてとても楽しかったです。この大会に出て普段はできないような様々な経験ができました。



徳島大会で得たもの

國岡 和正 (中1)

僕はこの大会に出て嬉しかったことや為になったこと、そして、色々な出会いもあり、その中で思い出深かったことがありました。僕は初めての大会参加だったけどクラブ対抗障害物競争には自信があったのに、前日になり、ホースが結合されていないの走ってしまったらどうしようと不安がわきました。しかし、本番になるとスムーズにでき練習の成果が出てとても嬉しかったです。次にダンボールハウスを作ったり寝たりするのはどんな感じか楽しみにしていて、実際は寝にくく朝起きると腰が痛くて、被災された方たちの大変さがわかりました。みんなと貴重な体験ができ大会に参加することができたことを本当に良かったと思いました。



校歌を書いて
広島からメッセージ



全国大会に行って

小川 竜輝 (中2)

ぼくは徳島全国大会に行つてすごく良い経験をしました。一日目の夜、参加クラブ紹介があり豪華な食事をしながら徳島県で有名な阿波踊りも見て楽しかったです。二日目は大会本番で緊張しましたが調子よくタイムも良く全国で20位でした。結構うれしかったです。前回よりまた上がったので次は10位以内を目指し頑張りたいです。その後ダンボールハウスを作り一緒に班の人達が良い人で良かったです。ダンボールで作った机でみんなドランプをしたのはすごく楽しかったです。最終日に地元の消防の人からこれまで起きた災害と取り組みについて話を聴き大変だった事が分かりました。でもこの事がたぶん将来役に立つと思えました。三日間本当に良い経験を本当に楽しかったです。



折り紙のご協力



三日間で学んだこと

國澤 日和 (中2)

僕は全国大会に向けて昨年と一緒に練習してきた仲間や、新メンバーのみんなと三日間楽しく参加できました。全国大会へは三回目の出場となったので競技のコツもつかめ順位も毎回少しずつ上げることができました。なにより、速さだけでなく協力すること、丁寧さや確認することの大切さを学びました。全国のクラブ員のみなさんと協力しあい交流を深め仲よくなるのが嬉しかったです。

また実際に災害が起きた時、自分で行えることは何かを考えるきっかけにもなりました。冷静に物事を考え今回交流会で学んだことを思い出して活用したいと思えました。



学校部活あとの短時間、頑張る！



初めての全国大会

佐藤 空 (中2)

僕は、今大会が初めての全国大会参加でした。五人で出場してそのうち二人が大会経験者でした。初めは不安でした。でも、前回は一緒に訓練を受けていたけど参加できなかったので行くことができ嬉しかったし楽しかったです。分からない所は聞いたりして問題なく大会にのぞむことができました。

大会には色々な年のクラブ員がいて小柄な小学生からとても大きな中学生もいることにビックリしました。二泊三日、少し暑くて疲れたけれど、また行きたいと思える充実した良い経験ができました。それと日本だけではなく世界で消防の競技や交流をしていることを知り驚きました。



築いた絆を大切に！



六区少年少女消防クラブは、平成5年に結成し、現在クラブ員110名で活動しています。主な活動は、年末夜回り広報、防火餅つき、ひとり暮らし高齢者住宅への「防火声かけ運動」などを行っています。今回の交流会では、中学2年生5名が参加しました。

この交流会で築いた絆を大切に、今後もクラブ員と地域の懸け橋となる活動を行い、地域に根ざした防火防災活動に貢献していきます。



合同訓練

富田 龍綺也 (中2)

今回の交流会の訓練に向けて、僕たちは短い期間で一生懸命練習してきました。本番当日、たくさんの参加者や多くの人達の前でとても緊張しましたが、最後までやり遂げることができました。全国のみんなとも仲良くなるのが出来て、とても良い経験が出来ました。

僕にとって二回目の交流会でしたが、50チーム中18位という結果だったので、来年も参加出来たら上位に入れるように頑張りたいと思います。



少年消防クラブ交流大会に参加して

知野 稜平 (小5)

7月から美馬市消防本部の人たちに何度も学校まで来ていただいて、リレーや障害物競走の練習をしました。ホースを伸ばしたり、ロープを結んだりを何度も繰り返しました。おかげで、少しずつうまくなって、自信が持てるようになってきました。本番では、みんなで協力し合い、実力を発揮することができました。全力を出し切ってゴールすることができたので、とてもうれしくなりました。夏休み一番の思い出になりました。



うまくいった巻き結び

喜多 亮介 (小5)

全国交流大会の前に、ロープの結び方の練習を何度もしました。ぼくは巻き結びをすることになりましたが、なかなか覚えることができませんでした。やっと覚えたと思っても、何日かたつと「あれ、どうだったかな。」と忘れてしまっていました。しかし、何度も練習したおかげで、本番ではスムーズに結ぶことができました。4チームで競争したのですが、その中では1位になることができました。がんばって練習して良かったと思いました。



みんなでがんばった全国大会

黒田 息吹 (小5)

8月2日からの3日間、消防クラブ交流大会に参加しました。クラブ対抗リレーでは、第3走者で水消火器の担当でした。いつもの練習ではうまくいったのに、本番では緊張していたせいか、あまりうまくいきませんでした。次の障害物競走では、ホースの結合やロープの本結びが、練習以上にうまくいったうえに、対戦相手にも勝つこともできました。飛び上がるほどうれしくなりました。来年の全国大会にもぜひ挑戦したいと思いました。



初めての少年消防クラブ交流会

齊藤 琉羽 (小5)

頭にヘルメット、ひじとひざにはサポーター、両手に軍手をつけていよいよ本番が始まりました。ぼくは消防ホースを使ったボーリングでした。うまくピンを倒すことができました。屋からの競技では、もやい結びを担当しました。この大会に出る前に何度も練習したのでうまく結べました。練習から本番までみんなでがんばってきて、協力することがとても大事だということがよくわかりました。



また参加したいな交流会！



板野東部少年少女消防クラブは、男子 16 名女子 8 名で今年度結成された消防クラブです。今回、6 年生 5 名で参加しました。

交流会では、他県のクラブ員との交流や、避難所体験など、普段体験できないことをさせていただき、とても勉強になった 3 日間でした。



全国大会を終えて

● 伊丹 秀磨 (小6)

大会当日、ぼくはみんなの前で選手宣誓をするのできんちょうしていました。本番きんちょうしながら前に立ち選手宣誓を言いました。失敗しなかったのでよかったです。クラブ対抗リレーでは、練習通りスムーズにバトンパスが出来たので良かったです。最終順位は 23 位で半分より少し上なのでうれしかったです。この交流会で普段味わうことの出来ない貴重な経験が出来てよかったです。



全国大会を終えて

● 和田 知晃 (小6)

ついに少年消防クラブ交流会(全国大会)です。とてもいい天気でわくわくしてきました。クラブ対抗リレー、クラブ対抗障害物競走では、あわせて 50 チームの中で半分以上、徳島県 4 チームでは 1 位でみんな喜んでいました。入賞はのがしましたが楽しく、とてもいい思い出になりました。この交流会で学んだってことをもしもの時に活かせるためがんばりたいです。



全国大会を終えて

● 安田 珠貴弥 (小6)

全国大会の参加に向けての練習ではロープ結作や自分の走る順番や担当を覚えたりだけでなく、チームになった仲間と仲良くなってチームワークを強くしたりすることも大切だと思いました。練習や、2泊3日の全国大会に参加して、困っている人やケガをした人などを見つけたら、助けを呼ぶなど、自分が学んだことを生かしていけるようにしようと強く思いました。



全国大会を終えて

● 山本 祥二郎 (小6)

ぼくは、8月2日と3日と4日に消防の全国大会に出場しました。最初は少し不安もありましたが、すぐに友達と仲良くできて楽しく大会に参加できました。3日の大会は暑かったけど自分が今まで練習してきたことが出来たので良かったです。夜は、わき町でダンボールハウスをみんなで作りました。初めてのことがばかりで思い出に残りました。いろんなことを経験できたのでうれしかったです。



全国大会を終えて

● 葉田 賢太郎 (小6)

8月2日から8月4日に少年消防クラブの交流会に参加しました。3日のリレーはみんなで一生けんめい練習した成果を見せる日です。ぼくは、バトンをもらいアンカーで最後に走りました。今までで、1番速く走れました。うれしかったです。順位は、それほど良くなかったけど、みんなががんばれたので一生の思い出になると思います。



最高の思い出となった、3日間の交流会！



瀬居幼少年消防クラブは、平成25年4月に活動を開始しました。現在のクラブ員数は、瀬居小学校の2年生から6年生まで、12人で活動しています。クラブが発足して4年ですが、毎年、防火防災に対する活動や学習を積極的に行っています。交流会に参加して全国のクラブ員さんとの交流を通じて、楽しく、元気に防災について学習ができ、最高の思い出となりました。



● 沖田 絢音 (小6)

私がこの少年消防クラブ交流会で心に残ったのは二日目です。二日目はいろんなことがあったけれど、一番「リーダーとして」という心があったと思います。「リーダー」はみんなをひっぱり、頼られる存在ですが、「私がリーダーでいいのだろうか」と思っていました。でも、やり終わってみると、とても楽しかったので、これからも「リーダー」を挑戦していこうと思いました。



● 中西 拓海 (小6)

ぼくが、少年消防クラブ交流会の思い出で一番心に残ったのは、大会当日です。炎天下の中、たくさん練習してきた50チームで対抗戦を行いました。結果は40位でしたが、とても楽しかったです。また、1日目の宿舎でのひととき、2日目のダンボールハウス作り等、とても楽しかったです。この3日間で、たくさんの思い出ができました。この経験を今後に生かしていきたいと思います。



● 山地 悠礼 (小6)

ぼくが少年消防クラブ交流会で、一番思い出になったのは、大会当日でした。始めは少し緊張をしていたけど、競技がはじまると「よしがんばるぞ」という気持ちになってがんばりました。午後の部は、大好きな障害物競走でした。みんな熱い気持ちでがんばっていい記録が出たと思います。結果は残念だったけど、またいつか交流会があったら、はりきってやって、いい記録を残したいです。



● 荻野ひかり (小6)

～少年消防クラブ交流会に参加して～

私が一番心に残ったのは、二日目の合同訓練と、避難所体験です。まず合同訓練は、練習の成果が出しきれず悔しかったです。次に避難所体験です。他の地域の交流を深めながら、避難所で生活する人達の気持ちを考え、ダンボールハウスを作るのはとても難しかったです。交流会でした活動は、貴重な体験ばかりで、楽しかったです。



● 長谷川愛生 (小5)

わたしは、少年消防クラブ交流会に行き思い出に残ったことは、ホテルでとまったことです。はじめは、あまり友達と泊まることがないので、不安でした。けど、だんだん楽しくなってきました。いい思い出になりました。2日目は、体調をくずしてしまっただけ楽しかったです。次回出れるときがあったら、体調をよくして、リベンジしたいです。



● 須鼻 泰生 (小5)

ぼくが少年消防クラブ交流会で、一番思い出になったのは、大会当日です。午前のクラブ対抗リレーは、練習をしていなかったで緊張していました。けど、本番になってだんだん緊張なくなりました。やってみると楽しかったです。午後の障害物競走は練習をしていたので上手にできました。いい結果ではなかったけど、次回出るときがあったら、いい結果が残るようにしたいです。



多くのことを学び、実感した交流会



久万中学校少年消防クラブは、久万中学校の1年生39名全員がクラブ員として登録されています。その中から5名の代表者が、本年度の交流会に参加しました。今回参加した5名を中心に、今後も地域の方と共に防災訓練や救急救命法などをしっかりと確認し、災害等の発生時には地域の一員としてもしっかりと機能していきたいと思えます。



ダンボールハウス

大野 陸仁 (中1)

僕は、ダンボールの中で寝るのは初めてでした。いつもならベッドで寝ているけれど、ダンボールで寝るので、寝ることができるかなと不安になりました。実際に作ってみると、寝やすいと思えるものが作れました。

夜の消灯時間までの間、同じグループになったみんなとカードゲームをして遊びました。いつも少ない人数でやっているけれど、他の中学校の人と一緒にしたので、盛り上がりました。

消灯時間になっていざ寝てみると、ぐっすり眠ることができました。ダンボールハウスですごしたことは良い体験と思い出になりました。



楽しかった三日間

丸山 智弘 (中1)

僕は三日間徳島で開催された、全国交流会に参加しました。初めて徳島へ行くので、うきうきわくわくしていました。

一日目はホテルに泊まりました。徳島は久万高原町よりも、とても暑かったので驚きました。夕食はバイキングで普段よりたくさん食べました。二日目は競技会に参加したり、ダンボールハウスを作ったりしました。同じグループになった中学生とトランプをして遊び、勝つことができました。三日目は片付けをしたり、お話を聞いたりしました。とても楽しく、有意義な三日間になりました。



初めての大会

上岡 柚葉 (中1)

私は、初めて消防の大会に参加して、一番心に残ったことは、ダンボールハウスを作ったことです。また、ダンボールハウスの中に、ごみ箱を作ったり、着替える所を作ったりもしました。他の組はダンボールを切り取ったり、旗を立てたりしていました。一緒のグループだった日野消防少年団の人は、絵がとても上手でした。

大会は、練習をあまりすることができていなかったもので、心配でしたが、何とかうまくやることができました。トンネルは思っていたよりも小さく、ヘルメットで前が見えませんでした。一生懸命にがんばることができました。順位はあまり良くはありませんでしたが、とても楽しかったです。



少年消防クラブ交流会に参加して

植本 奈菜 (中1)

私は、久万中学校少年消防クラブ員として、徳島で行われた交流会(全国大会)に行ってきました。二泊三日の中でもっとも心に残っているのが二日目です。二日目には、リレーと障害物競走がありました。いい結果は出せませんでしたが、ホースの出し方やひもの結び方を覚えることができたのでよかったです。

二日目の夜は、ダンボールハウスで宿泊しました。同じグループの人たちと話し合いながら作るのとても楽しかったです。ダンボールの上で寝るのは初めてで、なかなか寝られませんでした。

この三日間は、役に立つことばかりで、いい経験になりました。



避難所体験をして

大野 舞凜 (中1)

この全国交流会で一番心に残ったのは、避難所体験です。炊き出しのカレーを食べたり、ダンボールハウスを作ったりしました。ダンボールハウスは、グループのみんなで協力して、よいものができました。もしもの時にどうしたらいいのか分からない人がいたら、自ら作り方を教えてあげて、この体験を生かせるようにしたいです。

交流会で学んだことや体験したことは、とても大切なことだと改めて思いました。この体験は、絶対に忘れてはいけないと思いました。



多くの“仲間”と“思い出”ができた充実の交流会



美川中学校少年消防クラブは、全校生徒48名がクラブ員として活動しています。主な活動としては、中学生自らが災害時にできることを考え、行動に移すことができるように避難訓練を積極的に行っています。校内放送による予告なしのJアラート（緊急地震速報）時の対応など生徒の命を守るための活動を定期的に導入しています。

今回の交流会には、男子2名、女子3名が参加しました。多くのことを学ぶことができ、有意義な時間を過ごすことができました。

全国大会に参加して

櫻井 薫 (中2)

私が徳島県で開催された大会で一番心に残っていることは、避難所での生活を体験できたことです。避難所での生活は思っていたよりも不便でした。普段の生活とは異なり、周囲の人に迷惑をかけないように、気を配らなければならないことが大変でした。しかし、実際に災害が起きた際には、今回の体験で学んだことを思い出し、きちんと対応できるようにしたいと思います。

徳島での交流会を終えて

梅木 莉菜 (中2)

私たち美川中学校少年消防クラブは、徳島県で開催された少年消防クラブ全国交流会に参加しました。会場には全国から大勢の人が集まっています。今回、このような貴重な経験ができたことは本当に良かったと思います。特に、2日目の夜の避難所体験では、他県からの参加者と協力しながら、段ボールハウスの作成を行い、実際に一晩過ごしました。苦勞することもありましたが、有意義な時間を過ごすことが出来たように思います。



初めての全国大会

梅木 隼太 (中2)

僕は、美川中学校少年消防クラブの代表として、今回初めて全国大会に参加しました。合同訓練の中では、チームのみんなと協力し、目標よりも早いタイムでゴールすることができました。また、避難所体験では、慣れない作業が多くありましたが、他県からの参加者と力を合わせることで何とか乗り切ることができました。最終日には、消防団の方や小中学生の発表を聞き、意見交換を行うことができました。貴重な話を聞くことができてよかったです。

徳島県での三日間で学んだこと

岡山 真子 (中2)

私は、初めて徳島県で開催された消防クラブの全国大会に出場しました。合同訓練では、仲間と協力しながら、真剣に取り組むことができました。また、避難所体験では、段ボールハウスの制作を行い、そこで一晩過ごしてみました。この体験から、被災者の方々が、どれだけ大変な思いで避難所生活を送っているのかを痛感させられました。多くのことを学ぶことができ、大変充実した3日間でした。



徳島県での体験

吉田 樹 (中2)

僕は、美川中学校少年消防クラブの代表として、徳島県での消防クラブ全国大会に出場しました。1日目は、全体会での自己紹介があり、大変緊張しましたが、自分たちの良さをしっかりとアピールすることができたように思います。2日目は、合同訓練が行われ、各県の代表者たちに負けぬように、仲間と一致団結して取り組むことができました。また、避難所生活を体験することができたり、代表校の活動報告を聞くことができたりと、様々なことを学ぶことができた交流会でした。

楽しく学んだ交流会の思い出



南国市少年消防クラブは、市内の小学4年生～中学3年生までの37名で活動しています。市の水防訓練や消防出初式に参加し、放水訓練・消火訓練などを行っています。交流会には中学生5名が参加しました。初参加でしたが、全国のクラブ員との交流や貴重な体験ができ、充実した交流会となりました。

多くを学んだ交流会

藤村 建太 (中3)

私たちはクラブ員として交流会に参加し、避難所体験をはじめ集団生活をしました。

クラブ対抗リレーでは6位という成績を取って今でもビックリしています。この大会を通じてチーム力やコミュニケーション能力がついたり、発揮したりできたと思います。これからの私の中学、高校生活に活かしたいです。



貴重な体験

野村 周平 (中2)

交流会で心に残ったことは、2日目の合同訓練と避難所体験です。段ボールを使って範囲を囲ってから生活しやすいように工夫しました。色々な地域から集まったクラブ員の話し方や遊びが違っていたりと色々な事が知れて、また、普段できない貴重な体験ができて良かったです。



たくさんの思い出

川野上 菜々海 (中1)

今回の交流会では色々貴重な体験をさせていただきました。合同訓練では、上手くできるかとても不安でしたが、皆で力をあわせて思っていたよりも良い成績を残すことができました。避難所体験でも全国の仲間と協力して段ボールハウスを作ることができました。とてもいい思い出になり、この体験を大切にしたいです。



交流会に参加して

上田 緋音 (中1)

合同訓練では総合11位と初参加だったけど好成績を残せたのでとても嬉しかったです。避難所体験では段ボールでベッドやトイレなど生活に欠かせないものが作れることが分かりました。体の不自由な方や高齢者の方も不自由なく過ごせるような工夫をしたいと思います。来年も交流会に参加したいです。



充実の3日間

森岡 虎太郎 (中1)

初めての全国大会でとても緊張しました。クラブ対抗リレーではピンを全部倒すことができ、チームで協力しての総合11位はとても嬉しかったです。避難所体験や消防団の方々の話を聞きとても自分のためになりました。この充実した3日間で思い出や消防への憧れが多くなりました。また参加したいです。



協力して貴重な体験ができた3日間



赤岡町少年防災クラブは、赤岡小学校の児童全員が少年防災クラブ員として登録されていますが、上級生を中心として軽可搬ポンプ操作等の訓練や、地域の自主防災組織・保育所・中学校・高校等と連携した全児童参加の避難訓練を行っています。今回は、6年生5名が交流会に参加しました。



緊張しました

山下 朋滉 (小6)

8月3日に少年消防クラブの全国大会がありました。それまで学校の休み時間や放課後、夏休みの午前中などに、1時間ぐらい毎日練習がありました。

ぼくは二重巻ホースをボウリングの球がわりにし、ボウリングのピンを六本たおす役でした。練習の時は、「大丈夫、いけるぞ。」と思っていました。そんなことを思っていると、あっという間に当日になりました。

スタートしたとき、「できるかな。不安だなあ。」という気持ちが出てきました。ホースを投げた瞬間、手がふるえました。ボウリングの球は1本もおれませんでした。失敗してしまいました。でも、ぼくは一つのことをやりとげたことに満足しています。



クラブ対抗リレー

今西 章生汰 (小6)

2日目は合同訓練でした。最初にクラブ対抗リレーをしました。ぼくたちは、最初出遅れていて抜くこともできず、ペナルティーが増え、差がひらいて全然歯が立ちませんでした。

障害物競争では、ホースを伸ばすのが苦手だったけど、本番では真っすぐ伸ばすことができました。「やったあ。何回も練習してよかった。」と思いました。

今年は、16位と去年より成績は良くなかったけど、中学生のチームも多かったのががんばったと思いました。夏休みに暑い中、何度も学校に来て練習した成果も出たので良かったです。



ひなん所生活は…

岡崎 快舟 (小6)

2日目の夜はひなん所体験でした。晩ご飯はカレーとフルーツポンチでした。このひなん所体験は、「体験」だったので、みんなやほかの県の人とも楽しく段ボールハウスを作りました。家やねるところ、避難所生活に役立つテーブルやイスなどいろいろな物を作りました。でも、実際に本当にひなん所で過ごさないといけなくなると、こんなに楽しくはできないと思います。地震が起きたら、「家族は無事か。この先どうなるのか?」というような不安がいっぱいで、笑顔には絶対になれないと思います。また、知らない人との生活が続いたり、不便なくしや場所での不満があったりして、ストレスがいっぱいだと思います。

もうすぐ、南海トラフの地震が来ると思うので、その時はすぐにひなんし、自分の命を守りたいです。そして、避難所体験で体験したことを役立てたいと思います。



ひなん所体験をして

濱崎 ひまわり (小6)

ひなん所体験をしてみても、段ボールが机やイスなどに代わると思ってもいなくておどろきました。工夫をするといろいろな物ができたので、もし災害がおこったらダンボールを使って実際に作ってみたいと思いました。

段ボールハウスで寝ようとしたとき、消灯時間になっていたのに走っている人がいて、足音が頭にひびいてうるさくてねむれませんでした。ひなん所ではいろんな人がいるので自分のことだけでなく、ほかの人のことを考えることが大切だと思いました。ひなん所では、みんながルールを守って助け合うようにしたいです。ひなん所体験で体験したことを生かしたいと思いました。もしものときには、ひなん所で自分に何かできることがあったらやりたいです。



ひなん所体験で学んだこと

吉田 星瑛 (小6)

ぼくはひなん所体験でいろいろなことを学びました。その中で主に2つに残ったことがあります。

1つ目は、「人見知りがなくなる」ということです。ひなん所のダンボールハウスだと、家族と一緒にいるとはかぎりません。知らない人と一緒に何日か過ごすことになります。その間に人見知りがなくなるのではないかと思います。ぼくもほかのチームの人と話をしたりできました。

2つ目は、「みんなが自然に協力できる」ということです。ふつう、初めての人同士だと協力するのはちょっとむずかしいかなと思います。でも、ぼくたちが、ダンボールハウスで一緒になった厚南地区消防クラブのみなさんが、「一緒にしようよ。」と言ってさそってくれたので、ぼくはすごくうれしかったです。みんなで協力してとても上手にダンボールハウスができました。

ぼくたちの県には、南海トラフ地震がくるといわれているから、もし本当に地震が来たら、友だちや地域の人たちと協力したいと思います。



悔しさ、楽しさ、新たな出会いの3日間



栲原学園は、小中一貫教育校として平成23年度に開校され、同年より生徒全員が少年消防のクラブ員として登録されています。徳島県で開催される交流会への参加は今回で2回目となりますが、クラブ員の代表者の6名(小5・6年生)にとっては初参加となり、対抗リレーの成績に悔しい思いをしたり、避難所体験でダンボールハウス作りで他県のクラブ員との新たな交流が生まれたり、大変貴重な体験と充実した3日間になりました。



2泊3日の消防

高橋 零雅 (小6)

交流会1日目は、車で移動して徳島県に4時間後に到着しました。宿泊先で46番目にクラブ紹介をしました。すごく緊張をしました。夕食後に阿波踊りを皆で踊らなくてはいけなくて、恥ずかしかったけど、踊りに参加してみると結構楽しかったです。2日目は、リレー競技の応援をしました。スタートは順調だったけれど、祐人君がホースをつないだホースが2回外れてしまい、時間がかかって結果は最下位に終わりました。僕は午後の障害物競走に参加し、最後のロープ結末で、どのロープを使えばいいのか迷ってしまい、ちょっと遅くなりました。最終結果は、50チーム中47位で、とても残念でした。けれど、しっかり記録が残せたので良かったです。対抗競技が終わって、入浴施設に行きました。入浴施設はとても広く、サウナやジャグジーがあって、僕はサウナに入りました。とても気持ち良かったです。その日の夜は、うだつアリーナでダンボールを使った避難所生活の貧しい体験をしました。この時、グループになった穴吹少年消防クラブの渡邊佳樹君と、佐古晴惺君、知野稜平君と友達になり、名前が呼ぶのが、面倒臭かったので、渡邊君を「わっちゃん」佐古君を「さっちゃん」知野君を「ちっちゃん」と呼ぶ事にしました。3日目は、消防団員さんの話を聞いて、帰るだけでしたが、たくさん体験ができて良かったです。



徳島での大会

川上 奏汰 (小5)

徳島県へ5年生、6年生の6名が代表となって行きました。1日目は、ホテルに泊まれるのでワクワクしていました。ホテルのホールで交流会がスタートし、全国から集まった50チームの少年消防クラブの紹介がありました。紹介が終わると夕食会になり、食事はバイキング方式で、ご飯、ハンバーグ、魚のフライ、グラタンを食べました。食べると最高級の味でした。2日目からが大会です。午前と午後の種目があり、2つとも第1走者です。午前の種目は練習したことがなかったので始まるまで心配でした。僕は、ボーリングのピンをホースで倒すところです。最初は真っ直ぐ行ったけど、途中で曲がってしまいました。やばい！と言いました。次の走者に筒先を渡して、最後の最後にミスが出てしまいました。午後の競技は全部順調でした。そして大会が終わると温泉に入って、体育館に行って、外で非常食を食べました。意外とおいしい！と言いながら、みんなで食べました。夜はダンボールで自分たちの部屋を作って寝ました。最終日は、朝食後に体育館に作ったダンボールの部屋の片付けをしました。片付けは作る時よりも簡単でした。片付け後は、小学校と中学校の消防クラブの発表を聞き、徳島県の消防団の人の話を聞いて終わりました。たったの3日間だけど、色々な経験ができたので、ここからの練習や生活に活かしていきたいと思いました。



いい経験になった徳島

山本 祐人 (小5)

8月2日、消防クラブの5、6年生で徳島県へ行きました。徳島県に到着し、自分達が泊るホテルに行って、そこでオリエンテーションをしました。最初にやったのは、全国から来たクラブ紹介が順番にあって、自分たちのチーム紹介もしました。チーム紹介が終わると、夜ご飯を食べました。食べ終わったら部屋に戻ってお風呂に入ったり、9時頃になると一つの部屋に集まって、話をしたりしました。2日目が一番大変でした。なぜかという、競技があるからです。まず、一つ目の競技では、いい感じだったけど最後の僕が繋げるホーの所で2回抜けてしまって、その競技は最下位になってしまいました。2つ目の競技では意外とできて68秒というタイムでした。2つの競技が終わったその結果は、50チーム中47位でした。競技大会が終わった後は、うだつアリーナという体育館に行って、注意事項などの話を聞いてダンボールで自分たちの寝るところを作りました。僕は拓真君と一緒に寝ました。最終日は、体育館で小学生、中学生などの発表があった後、高知へ帰りました。僕はこの3日間、一番悔しかったことがあります。それは、リレー競技です。でも、この悔しさを忘れることなく、これからも少年消防クラブをやりたいです。また徳島県に行きたいです。



消防の合宿

中越 隆成 (小5)

8月2日から徳島県に全国少年消防クラブ交流会に行きました。1日目は、全国の人達に初めて会い、ドキドキしました。2日目は競技です。午前の部のリレーの競技の時は、僕は消火器を使って的を2つ倒す事しました。みんな頑張ったけど相手チームに負けてしまいました。午後のロープ結末をする競技は、平均台から一回だけ落ちたこと、ロープ結末を少し失敗しただけでした。でも、最初のグループの中で3位に入れたので嬉しかったです。2日目は、体育館でダンボールハウスを作って、そこで寝ました。作るのは大変だったけど、しっかり作れたし、いい感じになりました。3日間でしたが、楽しかったです。



楽しかった少年消防

高橋 彩人 (小5)

今日、僕と祐人君と隆成君と零雅君と奏汰君と拓真君と、少年消防クラブの全国大会に出ました。僕は50位のチームが来ていたのでビックリしました。1日目は、オリエンテーションで、僕達は46番目にチーム紹介をしました。1分間での紹介だったので、苦しかったです。2日目は、合同訓練です。全国の50組が敵で競技をしました。午前の部の競技は、失敗が多くて1位にはなれなかった。悔しかった。2つ目の競技は、みんなが頑張って早かったので嬉しかったです。また、みんなと一緒にいきたいと思いました。



初めての徳島

川上 拓真 (小5)

3日間、消防クラブのみんなで徳島県へ初めて行く事になりました。ホテルに到着して自分達の部屋に移動して、その部屋でオリエンテーションが始まるまで待っていました。時間になって服を着替ったら夕食を食べられると思っていましたが、まず消防クラブの紹介をします。それが終わったら、やっとご飯です。とてもおいしかったです！夕食の後、阿波踊りの披露があって、それで1日目は終了です。2日目は、全国の消防クラブとのリレー競技などの勝負です。僕は頑張るぞ！と思っていたけど、負けてしまいました。そしてその夜には、体育館で避難所体験としてダンボールハウスを作って寝ました。3日目は、消防団の人達のお話を聞いたりお話をしたりしました。また交流会に行きたいです。

今年も参加できてよかった!また来年も!!



くすばし少年消防クラブは、平成24年に発足したクラブです。北九州市八幡西消防団第11分団の管内に住んでいる、中学生と高校生を対象としています。現在13名在籍しています。特徴としては、2~30代の消防団員が主に指導を行っていることです。訓練を重ねるうちに、消防団員とクラブ員が交流でき、高校を卒業すると同時に、消防団入団へとつながっています。今回の交流会に向けて約1か月間訓練しました。



阿波踊りが楽しかった!

尾添 敬一 (中3)

昨年に続いて、今年も全国交流大会に参加できてとても嬉しかったです。印象に残ったのは、避難所体験でした。段ボールをつかって、どんなものがあれば避難したときに快適に過ごせるかを考えて、机や椅子などをつくりました。段ボールは色んなものがつくれるんだなと勉強になりました。

阿波踊りを初めて踊りましたが、みんなで踊ったので、とても楽しかったです。事前に阿波踊り会館で練習した甲斐がありました。



避難所では、静かに過ごす!

鶴本 愛 (中3)

今年も段ボールハウスづくりをしました。エアコンがついて涼しかったです。避難所では静かに過ごすということが勉強になりました。一緒にグループになったクラブ員とも仲良くなれてよかったです。

徳島へはフェリーで行きました。去年は新幹線で7時間くらいかかりましたが、フェリーは自由に動けたので、良かったです。みんなで楽しく行くことができました。



非常食がおいしかったです!

山本 咲希 (中3)

初めて会ったクラブ員と一緒に、段ボールハウスをつくりたり、そこに絵を描いたりして楽しかったです。それと外で食べた非常食のごはんがおいしかったです。フルーツの缶詰もついていてよかったです。大人の消防団の方に、消防団は主にどんな仕事をするのかと色々なことを聞いて、よかったです。

去年は、南三陸町に行き、今年は徳島へ行きました。来年は高校生になり、参加できなくなるので残念です。



みんなで一つに!

三浦 聖羅 (中3)

一番勉強になったことは、みんなで一つにならないとできないことだなということです。チームワークの大切さがわかりました。

楽しかったのは、全国の人たちと交流できたことです。たくさん集まっていたのでびっくりしました。

フェリーに初めて乗りましたが、夜遅くまでみんなと騒いだのが楽しかったです。徳島県に初めて行きましたが、また行ってみたいと思いました。



避難所体験。今度は指導者として!

長谷川 天祐 (中1)

僕は初めて参加しました。一番思い出に残ったのは合同訓練でした。消防団の人から教えてもらって練習をしました。本番では、とても緊張しました。とてもいい思い出になりました。

避難所体験では、段ボールハウスで、他の県からきたクラブの人と遊んだことが楽しかったです。今回勉強した避難所体験を、今度は自分たちが指導者となって、地域の方や子どもたちに教えていきたいです。



この大会がクラブ員のやる気に!!

浦濱 恵介 (指導者)

今年は主にヨーロッパ青少年オリンピックに参加したメンバーで参加しました。結果としては残念でしたが、クラブ員にとってはとても貴重な経験ができた夏でした。ここ数年全国交流会に参加していますが、クラブ員はこれに参加することで消防クラブの活動に対してとてもやる気になっています。また来年も参加し、来年は上位を狙えるようしっかり訓練をしたいと思います。関係者の皆様、ありがとうございました。



初めての全国大会、たくさんの思い出ができた徳島



唐津市鏡少年消防クラブは唐津市立鏡山小学校の4年生、5年生、6年生の希望者で構成されており、4年生6名、5年生18名、6年生8名の計32名で、「消防学校防災研修」「防火ポスター作成」「少年自然の家防災研修」「消防出初式参加」等の活動しています。

今回はクラブを代表し、6年生から5名が交流会に参加しました。初めての交流会参加でしたが、この経験がクラブ全体の糧となるよう今後の活動に活かしていきたいと思います。



全国大会に参加して 市丸 瑛真 (小6)

1日目はホテルで各チームの発表会がありました。みんなの前で発表するのはとても恥ずかしかったけど、間違えずに発表できました。

2日目は合同訓練。結果は43位だったけど、皆が一致団結し、頑張ることができたのでとても良かったです。自分たちで作った段ボールハウスでの共同生活はとても大変だったけど、貴重な体験ができました。

全国大会に参加して、大変な事もたくさんあったけれど、とても良い思い出になりました。



全国大会に行って 永田 兼統 (小6)

僕たち唐津市鏡少年消防クラブは小学生しかいません。全国大会には「中学生も出るんだなあ」とびっくりしました。カンカン照りの天気の中での障害物マラソンでは、もう少しで熱中症になるどころでした。僕が走るのがもう少し早ければもっと良い順位だったのかなあと思いました。結果表を見ると上位には中学生がいたので、「やっぱり強いなあ」と思いました。でも、みんなで協力することができたのでとても良かったです。



交流会に参加して 竹永 望稀 (小6)

私が参加した今回の交流会では、合同訓練と段ボールハウス作りが印象的でした。合同訓練で、消防士さん達の日頃の訓練の大変さを体験することができました。段ボールハウス作りでは、災害で被災された方々の大変さを体感することができ、今ある生活に感謝することが大事だと思いました。

交流会を通して、日頃から防災意識を持つことの大切さを学びました。



貴重で楽しい全国大会 山下 真依花 (小6)

私は、少年消防の全国大会で、色々な地域の人たちと友達になり、とても貴重な経験ができました。

競技の結果は下から数えた方が早かったけど、とても楽しかったし、他の人にはできない体験ができたのでとても良かったです。

練習は消防本部の方から指導していただき、大変だったけれど、参加できて良かったです。今後もこのような機会があれば積極的に参加したいです。



命を守るもやい結び 牧山 ひかり (小6)

少年消防クラブ全国大会に参加して、二つのことを学びました。

一つ目は、チームの団結の大切さです。様々な障害物を乗り越え、筒先をバトンとして五人でつなぎました。練習の成果を十分に発揮できて、みんなの頑張りを徳島の会場で出すことができました。

二つ目は、消防本部の方に教えてもらった「もやい結び」です。もやい結びはとても難しかったけれど、しっかりとした結び方で、災害の時に活用でき、人の命を守るために使えるものを習得することができました。



思い出の1ページ～あつかった3日間～



ひかり児童館少年消防クラブは、小学生8名、中学生3名の計11名のクラブ員で活動しています。消防本部や地元消防団との交流を図りながら、地域の防災リーダーとして、防火防災の啓発に力を入れています。今回の交流会は、中学生3名、小学生3名の計6名が参加しました。

少年消防クラブ交流会を終えて 岩瀬 快聖 (中2)

僕は全国大会に参加してたくさんのことを学びました。全国大会に参加したのは、二度目だったけど、六年生のときに学んだことは中学生になると違う視点で学ぶことができました。大会前日はほかのクラブのみんなとご飯を食べて阿波踊りをしました。大会当日は楽しみという気持ちと緊張という気持ちでいっぱい、リレーと障害物競争ではとても緊張しました。結果は8位でしたがとても嬉しかったです。段ボールハウスではほかのクラブの人たちとすごしてとても充実した三日間となりました。



少年消防クラブ交流会を終えて 里見 菜 (中3)

私は全国大会に参加してたくさんことを学びました。チーム全体で協力して取り組めたと思うし、結果も昨年より上位に入ることができました。大会後の交流会でもいい思い出ができました。二日目の夕食は非常食を食べ、ダンボールハウスでは美川中学校のクラブ員の子たちと一緒に自分達で作りました。徳島の消防団の人たちから聞いた話は、私自身とてもためになりました。徳島で得たこと学んだことをこれから伝えていきたいです。全国の人たちと楽しく交流できた少年消防クラブ交流会でした。



少年消防クラブ交流会を終えて 岩瀬 心花 (小6)

私は、この交流会、全国大会で、学んだことがあります。1つ目は、仲間と協力することです。今回は、クラブ員との協力で、8位という結果がでせたので、クラブのみんなに感謝したいです。2つ目は、他のクラブとの交流を深めることです。最初は、仲良くできるか不安だったけど、話してみれば結構仲良くなれて、交流を深めるという事も大切な、と感じました。この交流会、全国大会は、いい経験となり、防災について学ぶことができました。



少年消防クラブ交流会を終えて 山下 瑠星 (小5)

消防の全国大会に参加しました。僕は、トンネルくぐりました。終わった後も応援しました。結果は8位でした。全国で8位なのすごいいいと思いました。次に、避難所体験をしました。夕食も立って食べました。ダンボールハウスで寝ました。他の人もたくさん交流できてとても楽しかったです。次の日、地元の消防団の方々に話を聞きました。自分が想像していたよりもすごくてびっくりしました。この三日間の経験を活かして、消防活動を頑張りたいです。



少年消防クラブ交流会を終えて 村岡 美弦 (小6)

私は、初めて少年消防クラブ交流会に参加しました。大きな声で返事をすることや、素早くきれいに並ぶこと、消火器訓練、ロープ結案などを身に付けることができました。全国大会では、練習の成果を出すことができ、全国で8位になりました。とても嬉しかったです。一番心に残ったのはダンボールハウスです。私も去年の熊本地震では避難所生活をしました。この交流会で身に付けたことをいろいろな場面で活かしていきたいです。



少年消防クラブ交流会を終えて 堀田 萌 (中3)

私は、この3日間でいろいろな消防活動を通して学びました。中でも、避難所体験では実際に缶詰などの非常食を食べましたがしっかり栄養を取ることが難しく、また、段ボールと毛布で宿泊しましたが1日だけでも体中が痛くなり、周りの音が気になって熟睡できず、被災者の方々はどんなに辛く、不安な思いをされていたのかとテレビで見ているだけでは分からない事を改めて知ることができました。この大会で学んだ事を忘れず、今後の防災、消防活動に生かしていきたいです。



初めての交流会！ 全国の同志と過ごした3日間



西瀬少年消防クラブは、平成28年に人吉市立西瀬小学校の4年生から6年生で結成した少年消防クラブです。現在は4年生1名、5年生4名、6年生11名で、消防学習や住宅用火災警報器の普及啓発活動、消防出初式での通常点検披露等の活動を行っています。

今回の交流会では、6年生5名と5年生1名で初めて参加しました。

全国の同じ志をもつ仲間との交流、合同訓練、防災への取組で学んだことを、今後の自分の糧にし、活動に活かしていきたいと思っています。



田中 桃愛 (小6)

私たち、西瀬少年消防クラブは今年初めて全国大会に出場しました。

本番では練習の成果を出し切って50チーム中12位という結果を出すことができました。

その後は、いろんな活動でたくさんの友達ができました。北海道や高知、東京、佐賀の人達とも仲良くなることができました。

今回、とてもいい経験ができました。

岩本 偲遠 (小6)

僕たち西瀬少年消防クラブは、6名で交流会に参加しました。そして初出場で12位になることができました。とても難しかったけど、メンバーと協力して競技に挑めたのでよかったです。

しかも、他のチームの人とも交流をすることができました。

このような貴重な体験をこれからの生活に活かしていきたいです。

山口 真央 (小6)

私は、交流会に参加して、色々なことを学ぶことができました。

初出場でも緊張していました。だけどチームのみんなと、練習を重ねるごとに、上達していきました。

本番では、私たちの実力を精一杯に発揮することができ、とても良かったです。

交流会を通して、たくさんの友達もできました。交流会に参加して、良かったです。

尾方 颯汰 (小6)

僕は、初めて消防の大会で徳島県に行きました。この全国大会を通して、全国の防災クラブがどのように地域と関わっているのかなどについて知ることができました。

2日目の夜は、ダンボールハウスを作り、他のクラブの人と仲良くなれました。

そして、2日目の合同訓練本番では、12位だったので、とても嬉しかったです。

原 琉悟 (小6)

今年、初出場だった僕たちは、たくさん練習したりして、全国大会に臨みました。

そして、僕たちは全体で12位でした。

初出場で12位という順位で、僕たちもびっくりしました。

この大会で学んだことは、みんなと「協力する」ということです。ここで学んだことを生活に活かしていきたいと思っています。

須恵 ゆうみ (小5)

私は、この貴重な体験をすることができました。

普段はできないダンボールハウスを造ったり、色々なクラブの人達と、友達になったりすることができて嬉しかったです。

今年は12位だったので、来年は10位以内に入りたいです。

写真集





オリエンテーション
クラブ活動紹介
阿波踊り観賞





合同訓練





避難所体験





徳島県下27消防団
との交流
徳島県内小中学生からの
活動報告



平成29年度
少年消防クラブ交流会(全国大会)

②夏休みフィールドワーク

- 防災意識調査「避難所生活について」
7月22日～7月29日 個別訪問401軒
- 津波浸水水位表示活動
7月22日～7月29日 約100軒
- 避難路危険度調査
8月1日～8月3日 津田地区道路





ご協力いただいた 関係者の皆様



徳島県知事 飯泉 嘉門 様



(公財)日本消防協会
(一財)日本防火・防災協会 会長 秋本 敏文 様



徳島県副知事 後藤田 博 様



(公財)徳島県消防協会 会長 乃一 一夫 様



徳島県消防学校 校長 篠原 守充 様



美馬市長 藤田 元治 様



徳島県消防学校 初任科生の皆様



美馬市婦人防火クラブ、美馬市消防団、美馬市消防本部の皆様



サンスター株式会社 様



徳島県防災人材育成センター 平山 康史 様



阿南市立津乃峰小学校の皆様



徳島市津田中学校の皆様



娯茶平（ごちゃへい）の皆様



クラブ員の 代表挨拶



選手宣誓

板野東部少年少女消防クラブ 伊丹 秀磨さん



決意表明

蒲田消防少年団 二階堂 智子さん



お礼の言葉

日野消防少年団 山内 月花さん



代表挨拶

大和市少年消防団 藤本 敦尋さん

